令和2年度 南あわじ市社会福祉協議会 事業報告書

(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

福祉目標

「みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち ~つなぐ・つながる・つなぎあう~」

重点目標

- A. 一人ひとりの生活を支えるネットワークづくり
- B. 活動をすすめるための組織基盤づくり



🥻 ※赤い羽根が付いている活動には、共同募金配分金を活用しています。



取り組み①「地域ケアシステム(み~あシステム)」のしくみづくりに取り組みます

活動項目①-1 地域ケアシステム(み~あシステム)のしくみづくり

(1) 自治会エリアでの見守り支え合い活動の推進【補助金・善意銀行・共同募金配分金】

第3次計画到達点・・自治会での会議や活動に参加し、顔の見える関係を作っていきます。また、モデル 地区を設定し「支え合い(防災)マップ」づくりなどを通じ、地域での見守りや支え合いをすすめます。 これらを通じて、既存の見守り活動や集まる場を支援し、住民が話し合える場としての「はなす会」を地域に増やします。

【「はなす会」の開催】

月日	主な対象者と内容	地域(参加人数)
R2.8.6	市三條地区「ぼうさい(支え合い)マップ」の実施 三條地区公会堂でマップづくりを実施しました。避難所 や消火栓の場所等の基本的な情報から、「大雨降ったら この道、冠水して危ないよなあ」、「ちょっと気になる 世帯があるんやけど…」、「自治会に入っていない世帯 のことはほとんど把握できていない…」等、地域の人に しかわからない情報もマップへ落とし込むことができました。今後も定期的なマップ更新を行い、地区内の防災意識や住民同士の支え合いの力を高めていくきっかけと します。	地域の方 19名 市役所危機管理課職員3名 社協職員 3名
R2.8.25	「話す会」について ・いきまっCAR移送事業の成り立ちや経過および事業 内容について ・集いの場の設置に向けた検討など今後の方向性につい て	沼島地区自治会長 6名 沼島市民交流センター2名 地域包括支援センター1名 社協職員 2名

R3.3.12

市福永地区「支え合いマップ」の実施福永地区コミュニティプラザでマップづくりを実施しました。ひとり暮らし高齢者や気になる世帯、空き家等の情報や「マンションに住んでいる人や自治会に加入していない人のことはあんまりわからへんな」や「この人は一人暮らしやけど近所とつながりはあるな」等、地域の人にしかわからない情報もマップへ落とし込むことができました。マップづくりをきっかけに「はなす会」等へとつなげていきます。

地域の方29名市役所危機管理課職員2名社協職員3名

【支え合い(防災)マップづくり】

普段から見守り・支え合いの関係性をつくることが、災害にも強い地域をつくります。 今年度は、市三條・市福永地区でマップづくりを実施しました。マップをつくり、課題を抽出して終わりとする のではなく、抽出した課題の解決に向けて具体的に地域で話し合う「はなす会」へとつなげていきたいと考 えています。





【わたしたちが暮らす地域でのマップづくり体験:写真は福永自治会でのようす】





【住民が集える場の推進・支援】

人は誰かと一緒に何かをして、同じ時間を過ごすと、過ごした分だけ心の距離が縮まります。これを「つながり」と呼んでいます。生活のあちらこちらでつくられている「つながり」は、人が「あつまること」によって「おおきなつながり」をつくります。人が集まると、「〇〇のことってどうしたらええんだあか」といった「生活のつぶやき」にふれることがあります。すると「私の知っている〇〇さんに聞いてみる」というように解決の糸口を探しはじめる場面が見られます。私たちは、この「大きなつながり」によって様々な問題を解決したり、新しい活動を生み出します。これを「ネットワーク」と呼びます。「生活のつぶやき」を解決する力の源は「あつまること」にあるのです。

話し合いや交流などのあつまりが繰り返されると、つながりが形成され、生活の相談ごとを話すようになります。この相談は、自然とお互いの「見守り」の姿へと発展します。このような見守りは、「ちょっと気になる人」の生活の困りごとや異変などを早期にキャッチすることになり、日常の生活を通じて、自分たちのできることを重ねあわせながら、お互いの「支えあい」へと地域活動として変化していきます。

【ふれあい・いきいきサロン事業の推進・支援】



地域で元気に暮らすことができるように、近くで集える場(サロン)づくりを推進しています。人と人がつながることは、日常生活の活力になるだけではなく、災害時の支援を地域内でスムーズに行うことができる原動力にもなります。サロン活動を推進していくことは災害にも強い地域づくりにつながります。サロンの運営への助成金は赤い羽根共同募金を活用しています。

■ふれあい・いきいきサロン開催状況

【緑エリア】10か所

サロン名	開催日数	場所	延参加人数	内容
ゆうゆうクラブ	12	大丸公会堂	111	さつま芋苗定植作業、さつま芋堀、 チューリップ球根植え、体操
ふれあいながた	9	コミュニティ プラザ長田	76	ほうさんだんごつくり、営農教室、干支 の押絵づくり、ブリザーブドフラワー、 文化展出品展示、遠足
中田サロン	12	中田公会堂	217	切り絵、塗り絵、手芸、ゲーム、調 理,講演、工作、クリスマス会
山添なかよし会	4	山添公会堂	86	植木の選定、梅見会、草引き
なでしこ	5	市場公会堂	33	おしゃべり、頭の体操、ゲーム遊び、講習会、ビデオ鑑賞、忘年会、 お出かけ
中筋いきいきサロン	3	中筋公民館	63	健康教室、体操、営農教室、ゴキブ リ団子つくり、会食
中山レディース会	0	中山公会堂	0	
しづの里ふれあいサロン	24	倭文公民館	253	体操、寄せ植え
徳中なかよし会	4	徳原公会堂	35	神社の清掃、安否確認
川向しあわせ会	4	川向公会堂	33	カラオケ
	77		907	





【コロナ禍においても「つながり」を途切らさない】

【西淡エリア】22か所

サロン名	開催日数	場所	延参加人数	内容
いきいきサロンIN西路	5	西路公会堂	56	脳トレ、講話、おしゃべり、体操
雁来いきいきサロン	5	雁来コミュニ ティセンター	87	脳トレ、人権学習、講話、工作、体 操
高屋ふれあいサロン	1	高屋公会堂	20	八幡さんの掃除
伊毘きさらぎ会	6	伊毘コミュニティセ ンター	83	体操、マスクづくり、おしゃべり
ひだまりサロン	4	阿那賀公民館	29	ホウ酸団子つくり、マスク作り、手 芸、グラウンドゴルフ
きずな	9	古津路集会所	72	手芸、折り紙、おしゃべり
喜多ひばり会	2	志知北公会堂	12	おしゃべり、認知症の話
きずな第2	7	古津路公会堂	71	おしゃべり、認知症の話、講話、会食
サロンえじり	5	江尻集落センター	84	ゲーム、講話、人権ビデオ、ゲーム
北方いきいきサロン	8	北方営農センター	61	地域集会所の清掃
慶野サロン	3	コミュニティ プラザ慶野	38	アクリルたわし作り、折り紙、肩た たき棒作り

しらさぎ	6	志知川地区 コミュニティセン ター	93	おしゃべり、花見、体操、手芸
みなとふれあいサロン	9	湊地区公民館	86	会食、講話、ボッチャ、クリスマス 会
MINATOいきいきサロン	12	湊活性化センター	290	講話、ゲーム、手芸、体操
西本サロン	3	西本村コミュニティセンター	33	ゴキブリ団子、感染症について
つくしサロン	12	志知コミュニティセ ンター・自宅	100	寄せ植え、コーラス、3B体操、グ リーンアレンジメント、生け花、フ ラワーアレンジメント、工作
いきいき長寿の会	350	大江のり販売所	2100	茶話会
ついつい行きたくなる お楽しみ会	9	津井交流センター	185	折り紙、手芸、体操、講話、人権学 習、塗り絵
丸山サロン	9	丸山地区公民館	69	花見、ゲーム、折り紙、講話、
松風	38	古津路集会所	295	体操、おしゃべり、その他
伊加利つながりサロン	4	伊加利地区公民館	26	体操、おしゃべり、その他
グリーンつながりサロン	3	山口地区公会堂	26	体操、おしゃべり、その他
合計	510		3916	

【三原エリア】13か所

サロン名	開催日数	場所	延参加人数	内容
しずおりわかばサロン	0	倭文研修指導施設	0	
ふれあいサロン松田	1	老人いこいの家	9	工作
サロン 睦会	7	委文公会堂	45	おしゃべり、マスクづくり
まほろばサロン	11	大榎列公会堂・憩いの家	87	おしゃべり、体操、ゴキブリ団子つ くり、手芸、寄せ植え、クリスマス 会、体操、川柳、
しあわせサロン	1	養宜公民館	10	マスクづくり
おたふくいきいきサロン	10	八木地区公民館	111	体操、囲碁ボール、折り紙、講話、 寄せ植え

ゑびす	8	市地区公民館	173	版画、料理教室、世代間交流、工 作、ゲーム、クリスマス会
十一ヶ所スマイルクラブ	7	老人福祉センター	78	野辺の宮清掃
小榎列サロン	7	小榎列集落センター	71	体操、ボランティア、清掃、おしゃ べり
ゆずるはサロン	5	神代地区公民館	50	花見、大日寺のお参り、おしゃべ り、会食
ぐるーぶこすもす	4	八木地区公民館	65	おしゃべり、寄せ植え
くま志ろ	9	神代地区公民館	95	おしゃべり、ゲーム、踊り、体操、 寄せ植え
サロンみなかみ	11	南上公会堂	52	おしゃべり
合計	81		846	

【南淡エリア】23か所

サロン名	開催日数	場所	延参加人数	内容
新田北ふれあい・いき いきサロン	5	新田北集会所	98	デコパージュ、工作、生け花、お しゃべり
あずまサロン	7	あずま老人 福祉センター	34	マスクづくり、プリント配布、弁当配布
潮美台にこにこサロン	11	潮美台公民館	158	体操、公園の花植え、チラシの配布
子育てママクラブ	1	沼島開発総合 センター	15	防災ワークショップ
さくらサロン	14	老人憩いの家 福良荘	146	体操、ストレッチ、練功、情報交換
まつぼっくり	11	楽市楽座	55	おしゃべり、手芸、工作
友遊会サロン	2	老人憩いの家 福良荘	20	体操、茶話会
仁尾いきいきサロン	5	仁尾荘	65	工作、会食、人権学習、
フレッシュすいせん	8	灘生きがい 創造センター	48	体操、グラウンドゴルフ、
サロンうぐいす	9	コミュニティセ ンター白崎会館	55	おしゃべり、体操

千種いきいきサロン	12	大川公会堂	72	おしゃべり、体操
網屋にこにこサロン	6	うずしおルーム	89	おしゃべり、手工芸、学習会、折り 紙、ひな祭り参加
福友会サロン	6	老人憩いの家 福良荘	46	体操
サロンいがの	6	伊賀野コミュニ ティセンター	50	おしゃべり、ゲーム、体操、工作、 グラウンドゴルフ
北納屋サロンお茶場	8	南あわじ市児童館	57	脳トレ、講話、工作
寿交会なかよしサロン	5	田中会館	46	体操、講話
灘なでしこ	10	安田 お好み焼き店	40	茶話会、手芸、餅づくり
楽遊クラブ	10	慈眼寺	150	体操、おしゃべり
うずしお台いきいきクラブ	23	うずしお台 コミュニティセンター	166	おしゃべり、体操、安否確認
コミュニティスペース エモラボ	12	コミュニティ スペースエモラボ	215	おしゃべり、体操、卓球バレー
賀集 咲く楽会	0	賀集公民館	0	
あわじユニバーサルスポーツの会	10	コミュニティ スペースエモラボ	176	おしゃべり、卓球バレー
花みずき向谷	12	コミュニティ向谷	55	おしゃべり、習字
合計	193		1856	

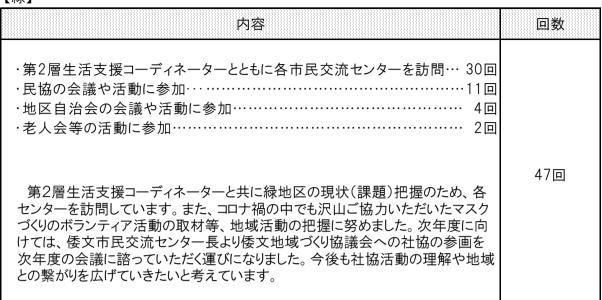
■住民への説明会

ふれあい・いきいきサロンについての説明会を次のとおり実施しました。

月日	内 容 (対象地区)	出席者数	場所
R2.6.22	古津路百歳体操	8	松帆古津路集会所
R2.8.29	伊加利地区老人クラブ役員会	12	伊加利地区公民館
R3.3.22	幸会	4	倭文公民館

(2) 市民交流センターエリアでのネットワークづくり【補助金・善意銀行・共同募金配分金】

【緑】



【西淡】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…98回 ・民協の会議や活動に参加1回 ・老人会等の会議や活動に参加1回 ・老人会等の会議や活動に参加	
市民交流センター単位の会議などに参加し、地域の現状や情報把握に努めています。感染症拡大の影響で、地域の会議等も開催を見合わせる傾向にあり、参加回数も減少しました。今後は、交流センターを中心に、地域の状況を把握しながら地域づくり協議会等への参画ができるよう、関わりを増やしていきたいと考えています。	107回



【話し合いを記録する。板書はワーカーの腕の見せ所です】

【三原】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…105回 ・民協の会議や活動に参加20回 ・自治会の会議や活動に参加14回 ・地域づくり協議会などの会議に参加	
三原地区では毎月上旬に、第2層生活支援コーディネーターとともに三原地区内の各市民交流センターを訪問し、ボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりをお渡しし社協の活動等を地域へ発信しています。また各市民交流センター職員と地域の情報を共有する機会になっています。市地区地域づくり協議会と榎列倭文地区地域づくり協議会に委員として参加していますが、今年度から新たに八木地区地域づくり協議会の委員として参画しています。地域づくり協議会へ参画することで地域の方や各種団体等と関わることができ、地域の情報を把握する機会となるとともに顔のみえる関係性が構築できつつあります。その他、三原地区民生委員児童委員協議会に参加し地域の情報の共有に努めました。『	157回

【南淡】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…72回 ・民協の会議や活動に参加20回 ・自治会の会議や活動に参加3回	
市民交流センター単位の会議などに参加し、地域の現状や情報把握に努めています。また、4~5月は市民交流センター窓口に手作りマスクを設置させていただいたことで、より多くの方へマスクをお届けすることができ、社協活動を啓発する機会にもなりました。下半期は支部運営委員会主催の研修会を通じて、小地域での集いの場の魅力を共有しました。	95回

(3) 旧町エリアでのネットワークづくり【補助金・善意銀行・共同募金配分金】

第3次計画到達点・小地域では対応できない生活課題だけでなく、広域での地域づくりについて検討できる場、情報共有やネットワークづくりの場として「地区ネットワーク会議(仮称)」を開催していきます。また、介護保険の新しい総合事業の生活支援サービスの体制整備における協議体としての役割を意識し、「地区ネットワーク会議(仮称)」委員の選出区分や、会議のあり方について見直しを行い、より具体的な話合いが進められるようにします。

■『地区ネットワーク会議』の設置に向けた活動・取り組み

内容	回数
地域ケア会議や単位民協へ定期的に参加することで、専門職や民生 委員・児度委員との情報交換を行っています。	420

■支部運営委員会

【みどり】

毎月の開催を予定していましたが、コロナの影響により6月からの開催となり、7回の運営委員会を開催しました。例年11月に開催していた「みどりふれあい福祉のつどい」については、協議を重ねた結果中止となりましたが、地域の防災に対する意識の向上と、地域の課題の共有に繋げていくことを目的に、ぼうさいカフェin緑を12月に開催しました。

月目	内容	出席者数
R2.6.18	支部運営委員会規定について 支部長・副支部長の選任 社会福祉協議会の活動について 年間計画について	17名
R2.7.16	ぼうさいカフェについて 地域の課題について	16名
R2.8.20	みどりふれあい福祉のつどいについて ぼうさいカフェについて 共同募金について	17名
R2.9.18	ぼうさいカフェについて 令和2年度共同募金運動について	18名
R2.11.11	ぼうさいカフェin緑について	10名
R2.12.17	ぼうさいカフェ i n緑振り返り 地域の課題について	12名
R3.3.18	今年度の振り返り 次年度の計画について	15名

【せいだん】

奇数月の年6回開催しました。毎年実施している「せいだんふれあい交流のつどい」は協議の結果、中止となりましたがつどいに替えて、前年度も実施した支部運営委員会主催の防災・減災研修を実施しました。また、伊加利地区の実践報告などを通じて、コロナ禍における見守り活動についても情報共有を重ねていきました。

月日	内容	出席者数
R2.6.17	支部長・副支部長の選任について 社会福祉協議会の活動について 令和2年度年間計画について	16名
R2.7.29	せいだんふれあい交流のつどいについて 今年度の活動について 地域の情報共有について	15名
R2.9.9	令和2年度共同募金活動について 研修会について	16名
R2.10.20	防災・減災研修会について 地域の現状について	16名
R3.1.12	防災・減災研修会の実施報告について 地域の現状について	15名
R3.3.15	伊加利地区「幸せの黄色い旗運動」について報告 次年度の計画について	15名

【みはら】

みはら支部運営委員会では、三原地区内各市民交流センター単位から選出された委員に参加していただき、年間活動計画に基づいて主にみはら福祉の集い、みはら支部募金協力委員会、地域内の課題等について話し合いをすすめました。

今後も、みはら地区の支え合いの輪を広げるために協議を進めていきます。

月日	内容	出席者数
R2.5	新型コロナウイルス感染拡大の為、延期。	_
R2.7.2	支部運営委員会について 支部長・副支部長の選任について 令和元年度事業報告・令和2年度事業計画について 各地区のイベント等について情報共有 みはら福祉の集いについて	10名

R2.9.17	みはら支部募金協力委員会 みはら福祉の集いについて	10名
R2.11.17	みはら支部運営委員会研修会について	9名
R3.1	新型コロナウイルス感染拡大の為、延期。	I
R3.3.10	令和2年度共同募金実績報告について 令和2年度事業報告について 令和3年度事業計画について	11名

【なんだん】

新型コロナウイルスの影響により、今年度は年間5回の運営委員会を開催しました。毎年11月に「なんだん福祉まつり」を実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止とし、替わりにこうした状況下でも住民同士のつながりを絶やさないよう、創意工夫を凝らし活動している小地域活動や、先駆的事例等をもとに、これからの地域での活動を行うきっかけづくりを目的として、「いつかきっと笑いあえるその日まで。つながりを紡ぐ研修会」を開催しました。

月田	内容	出席者数
R2.6.30	支部長・副支部長の選任について 社会福祉協議会の活動について 令和2年度年間計画について	19名
R2.7.28	令和2年度年間計画について	19名
R2.9.15	共同募金活動について 研修会について	21名
R2.11.11	研修会について 地域の情報交換	18名
R3.3.10	今年度の振り返りと次年度の計画について 地域の情報交換	16名

■各支部まつり実行委員会

各支部運営委員会にて支部まつりの開催について協議を重ねてきましたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から今年度はまつりの中止を決定しました。

■支部研修会



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、祭りやサロンなど地域で当たり前のように開催されていたものが中止となりました。支部運営委員会ではこのような状況下においても、住民同士のつながりを絶やさないよう工夫をして活動している小地域活動や、先駆的事例等をもとに、これからの地域での見守り支え合い活動を行うきっかけづくりを目的として、研修会を実施しました。11月24日(火)福良地区公民館にて「いつかきっと笑いあえるその日まで。つながりを紡ぐ研修会」を、11月27日(金)には湊地区公民館で「防災・減災研修会」を開催しました。

月日	内容	場所	出席者数
R2.10.17	赤い羽根共同募金街頭募金	三原ショッピング プラザパルティ	10名
	いつかきっと笑いあえるその日まで。つながりを紡ぐ研修会 基調講演 「いつかきっと笑いあえるその日まで。つながりを紡ぐ」 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 永坂 美晴 氏 実践報告 賀集地域づくり協議会 加藤 正隆 さん 片山 京子 さん ギョギョタウン 河野 博 さん	福良地区公民館	64名
R2.11.27	防災•減災研修会	湊地区公民館	40名
R2.12.6	ぼうさいカフェin緑 南海トラフ地震を想定した命を守る予防策 マイ避難カードについて	広田地区公民館	42名









【せいだん支部運営員会の防災・減災研修会のようす】

■生活支援体制整備事業(第2層生活支援コーディネーターの配置)

平成29年度より南あわじ市第2層生活支援体制整備事業業務を受託しています。

第2層生活支援コーディネーターはコミュニティーワーカーと共に、住み慣れた地域で生きがいをもって在宅生活を継続していくために、地域における支え合いの体制づくりを推進することを目的に活動しています。

生活支援コーディネーターの役割は、各地域のサロンや集う場を踏査し、集うことの意義や価値を伝えていくことです。 つながりの大切さやつながりが地域で暮らしていくうえで平常時にも災害時にも機能することの重要性を、支え合いマップや集いの場を通して伝える活動をしています。 しかしながら、今年度は、新型コロナウイルスの感染予防のため、「集うことの自粛」や「生活上のさまざまな制限」がかかり、地域活動が思うように行えない日々が続きました。

感染予防の必需品であるマスクが入手できない中、手作りマスクを作ってくださるボランティアを募集したところ、多くの方がマスクを作ってくださり、マスクのない方々へ届けることができました。また、校区によってはこの活動が広がり、地域でのマスクづくりに発展したところもあります。まさに地域の底力と善意の循環を確認できたエピソードですが、まだまだ続くコロナ禍においては、集いの場における感染対策などガイドラインを啓発していきます。

第1層生活支援コーディネーターとともに昨年度末に計画した「地域の可視化」に向けては、モデル地域とした八木地区の可視化を行いました。今後は、作成したデータを地域活動に活かす方法を検討していきます。

また、年度末には淡路市と生活支援体制整備事業意見交換会を開催し、1層、2層それぞれの役割等を共有することができ、来年度に向けた活動の参考となりました。

新型コロナウイルスの流行により、生活の中で様々な不自由さやストレスが表れ、それにより気持ちのすれ違いや大なり小なりの差別(感染地域や感染者に対する誹謗中傷など)が生まれています。今年度はこうした差別をなくすために、人と人とのつながりやお互いを認め合う地域づくりを啓発するため、南あわじ市人権教育研究協議会と協力し、地域で活用していただける回覧板を作成し、来年度初めに自治会を通して各隣保への配布を計画しています。

①生活支援体制進捗会議への参加(仕様書4-3)

第1層と第2層生活支援コーディネーターとの進捗会議を毎月実施しています。今期のテーマである「地域の可視化」に向けての進捗状況の共有を行いました。また、下半期には行政と社協が共催し「福祉の担い手養成講座」を開催しました。研修後アンケートの実施や各事業所の意見を伺う会も開催し、講座受講生の中から事業所にマッチングすることが出来ました。また、今回の養成講座は「ほっとかへんネット」の協力があり、社会福祉法人が、より身近な研修になったと思います。来期も今あるネットワークを活かし、住み慣れた地域で暮らし続けられる体制づくりをすすめます。

②地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起(仕様書4-4)

第1層生活支援コーディネーターとともに昨年度末より計画した「地域の可視化」の作業を行いました。八木地区をモデル地域とし、行政内のゼンリン地図に落とし込めるよう地域資源を拾い出しました。また、地図に記すことができない小地域の問題を、地域に詳しい自治会役員や以前の役員、民生委員・児童委員、地域の活性化のために活動をされている方、地域のつどいに参加されている地域住民から聞き取りを行い、地域の気になるところを伺いました。来年度は可視化したものを地域に示し、地域住民による地域課題の気づきを促し、活動づくりにつなげていきます。

③関係者間の情報共有、生活支援サービス提供主体間の連携の体制づくり(仕様書4-5・6)

社協内においては常に他職種間との連携に努めています。また、地域においては第1層生活支援コーディネーターとの連絡を密にし、旧町ごとに開催される地域ケア会議にコミュニティワーカーとともに参加し地域の情報共有を行っています。社会福祉法人連絡協議会の活動や情報の共有を行い、下半期に行政と共同開催の担い手養成研修講座の講師として協力いただくなど、今後も情報共有や連携に努めていきます。

④最低1回開催、5人以上の参加の住民主体の連携の体制づくり(仕様書4-6)

社協では、いつまでも元気に住み慣れた地域で暮らしていけるよう集う場やふれあいいきいきサロンの啓発を常に行っており、地域にコミュニティワーカーとともに説明に伺っています。また、サロンという形ではない、地域の中で集いの場となっているところを取材等し、情報の共有と発信をしています。そうした場の中には、地域ぐるみで取り組んでいるところ、ラジオ体操をしているところ、男性のつどいの場などサロンではあまり見ることのできない様子を伺うことが出来ました。伺った後も時々その場を訪ね、活動の進化や価値を把握しています。その情報は、社協の広報や生活支援コーディネーターだより等に掲載し広く地域に知らせています。

また、今年度はコロナ禍で社協の祭りや集いも中止になりましたが、形を替えて研修会という形でその事例を知ってもらえる研修を実施しました。新型コロナウイルスによる集いの場の自粛で、不安でストレスのたまる日々を送られていた高齢者の方々でしたが、コロナ禍でも「つながりをきらさない工夫」をして続けているサロンなどを電話取材したり、自粛解除後はサロン再開に向けて代表者様宛に開催にあたっての諸注意を記したチラシを届けるなど支援を行いました。これからも日常生活のみならず、災害時にも強い地域のつながりを生むため集うことの価値の啓発を進めていきます。







【地域の課題を企業の地域貢献で解決】

⑤買い物や受診手段等日常生活支援の仕組みに係る生活支援サービスの創出と管理(仕様書4-7)

現在、コープこうべ・とくし丸・個人宅配スーパー・魚屋のほかにファミリーマート、セブンイレブン等の宅配を把握しています。一方、見守り提携のあったウエルシアの宅配業務においては人手不足により業務から撤退するという情報も把握しました。住民同士の支え合いのしくみづくりをすすめることはもちろんですが、民間による地域貢献活動が継続できることで、必要な人に必要な支援が行き届く仕組みを検討しています。

⑥生活支援の担い手の養成に関する研修の開催(仕様書4-8)

地域には日常生活の中でちょっとした手助けがあるだけで住み慣れた地域で暮らし続けられる方がたくさんいます。担い手養成研修は在宅での暮らしを支える最前線の介護サービスの現場で働くことができる研修として、南あわじ市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット)にもご協力いただき、行政と共同で開催しました。ふだん仕事に従事している方にも受講しやすいようにと、日曜日に開催し、参加された受講者のうち1名が、訪問介護事業所の戦力となって活躍しています。

月日	内容	場所	出席者数
R2.11.8	生活支援サービスの担い手養成研修	中央公民館	16名
R2.11.29	生活支援サービスの担い手養成研修	中央公民館	16名











【担い手養成研修のようす】

- (4) 行政・関係機関(市域エリア)のネットワークづくり【補助金・善意銀行・共同募金配分金】第3次計画到達点・福祉部局だけでなく、他部局や関係機関にも幅を広げた情報共有の機会を増やすことで、より専門的な視点での連携した支援や、多くの意見を反映した施策化やサービス開発を行います。
- ■高齢者等元気活躍推進事業(おもいやりポイント制度)

今年度上半期は新型コロナウイルスの影響により、ほとんどの施設・保育所での活動が休止となりました。 新規会員はもとより、これまで活躍してきた会員の活動も止まったことを鑑み、生涯活躍推進室と協議を重ね、5月、6月には「おもいやりポイント制度瓦版」の発行や、ケーブルテレビ放送を活用した「自宅で学ぶ傾聴講座」を開催することで、制度の魅力を発信。また、施設が活動受入を再開する時に役立つような講座を開催し、制度の周知活動を行いました。

一方、法人として「はたらくシニア応援プロジェクト」に参加しました。シニア世代の活躍の場として、「日常生活自立支援事業」の生活支援員を募集し、3名のシニアの方が10月より働いていただけることになりました。 徐々にではありますが、小学校、保育園を中心に、感染症予防対策を行ったうえで活動受入れ再開の流れを受け、下半期は商業施設等で出張窓口を設け啓発活動を行うことで、より多くの方に周知を行いました。また、12月には座談会を開催し、より多くのシニア世代が参加できるにはどうしたらよいか?など意見交換を行い、今後の活動につなげていくよう話し合いました。

年月	場所	参加者		di S
		参加人数	登録者数	- 内容
R2.4.23	北阿万地区公民館	0名	0名	新型コロナウイルス感染防止のため個 別相談会に変更
R2.5				緊急事態宣言により、説明会は中止。 代わりに「おもいやりポイント制度」瓦版第2 号を発行
R2.6				緊急事態宣言により、説明会は中止。 代わりに「おもいやりポイント制度」瓦版第3 号を発行

R2.7.28	市役所本館 第2会議室	2名	1名	緊急事態宣言により、説明会は中止。 代わりに個別相談会を実施
R2.7.20~7.26				「自宅で学ぶ傾聴講座」 講師 あそびの工房もくもく屋 田川 雅規氏
R2.8.24~8.30				ケーブルテレビにて放送 好評により8/24~8/30に再放送 をした
R2.9.1	市役所第2別館 第5会議室	2名	0名	いちごの家・楽園おのころでの活動 紹介
R2.9.18	北阿万地区公民館	10名	0名	北阿万小学校・保育所での活動紹 介
R2.10.26	シーパ	3名	1名	啓発活動および湊保育所での活 動について説明
R2.10.27	シーパ	6名	2名	啓発活動
R2.11.19	中央公民館	7名	3名	市保育所・榎列保育所での活動紹介
R2.12.17	美菜恋来屋	3名	2名	啓発活動および八木保育所での 活動紹介
R2.12.22	中央公民館	7名	0名	思いやりポイント制度座談会
R3.1.21	広田地区公民館	2名	2名	読み聞かせ講座※緊急事態宣言により中止
R3.3.29	市役所本館 304·305会議室	2名	0名	新型コロナウイルス感染防止のた め個別相談会を実施

■「福祉のまちづくり推進会議」の設置に向けた活動・取り組み

内容	回数
第2期南あわじ市地域福祉計画、第4次地域福祉推進計画策定を協働してすすめることについて市民福祉部福祉課と協議。令和4年3月の策定を目標に作業をすすめています。	3回

■庁内ネットワーク会議

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 今年度も住民生活に密着した行政の担当部局の職員に参集いただたき、4回の会議を開催しました。自立相談支援事業、住居確保給付金、特例貸付の実績を報告することで、新型コロナウィルスの影響が広範囲に市民生活に影響が出ている現状を共有することができました。今年度は生活再建のためのプランに対する意見をいただく調整支援機能に重点を置き会議を開催しましたが、社協や福祉課以外の職員に参加いただくことで、支援の幅を広げることができました。

■勉強会

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 毎年、社協と福祉課との連携強化を目的に開催しています。今年度は令和3年2月に、「児童虐待」のテーマで、子育てゆめるん課西村主査、前田相談員にご講義いただきました。福祉課、社協、庁内から約20名の参加がありました。コロナ禍の影響が子どもたちに「虐待」という形で出ている現状を理解し、より一層の連携の必要性を共有することができました。

■社会福祉法人連絡協議会:ほっとかへんネット(隔月開催)

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 新型コロナウイルスの影響から、予定していた研修等は見送ることになりました。それに代えて、災害時の備蓄食品の確保やホームページ作成を行いました。また、コロナウイルスの影響から生活困窮者の増加が予想されることから、生活困窮者等への支援ネットワークについても検討しています。また、今年度は、南あわじ市地域包括支援センターと社会福祉協議会の共催で行う、生活支援サービスの担い手研修養成講座で、講師として協力するなど新たなネットワークも広がっています。



【こんな時だからこそ社会福祉法人のできることを話し合っています】

【南あわじ市の取り組みが紹介されました】

■まちの電気屋ネットワーク事業

生活困窮者や火災などにより、住宅や家財等を失くした方に、電化製品などを提供することで、自立した生活の再建に向けた支援を行っています。市内13店舗の電気屋が登録しており、使わなくなった電化製品の寄付と点検を行っています。

今年度は、電化製品13点を受け入れ4世帯に6点の電化製品を提供しました。

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等)

【登録電気店】

(有)前川電機商会、(有)浜野電機、庄司電気商会、喜田電気商会、 三和商事(株)、松下電器、辻西電化センター、豊原電気商会、 マスモトでんき、電気の店くろだ、サカベ電器、双葉電化、 矢野ミシン電器商会

■エリア単位の会議等への参加 ※「地区」は、市民交流センター域、「広域」は、市域を超えたもの書面、オンラインによる開催を含む

香山、オンフインによる開催? 名称	エリア	主な参加・連携機関	参加回数
地区まちづくり協議会	地区	自治会、老人クラブ、民生委員児童委員、商工会、身障福祉協会、観光協会、交通安全協会、防犯協会、消防団、ボランティア団体、体育協会、いずみ会、小中学校、PTA、保護者会	50
地域ケア会議	旧町	民生委員児童委員、地域包括支援センター、在宅介護 支援センター、介護保険事業所、健康福祉事務所、行 政	21
南あわじ市第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画策定 委員会	市域	民生委員児童委員、医師会、当事者団体、健康福 祉事務所、特別支援学校、障害福祉事業所他	4
南あわじ市老人福祉計画及び介 護保険事業計画策定委員会	市域	医師会、歯科医師会、施設代表、民児連、自治 会、健康福祉事務所、老人クラブ、当事者団体、 商工会	3
みはら家族会	市域	当事者、健康福祉事務所、ボランティアグルー プ、行政	12
南あわじ市介護支援専門員会	市域	居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所、地 域包括支援センター、在宅介護支援センター、行政	5
南あわじ市居宅介護支援専門員 運営協力委員会	市域	地域包括支援センター主任介護支援専門員、各事 業所主任介護支援専門員	1
南あわじ市介護認定審査会	市域	医師会、病院、障害福祉サービス事業所、行政	2
南あわじ市障害支援区分審査会	市域	医師会、病院、障害福祉サービス事業所、行政	12
あわじ暮らしの安全・安心ネットワーク会議	市域	県、消費者協会、警察、防犯協会、民児連、自治 会、女性会、老人クラブ連合会	1
南あわじ市障害者福祉施設運営 委員会	市域	医師会、施設代表、当事者組織代表、民児連、自 治会、健康福祉事務所、特別支援学校	1
医療的ケア児支援検討会	市域	医師会、市内相談支援事業所、医療センター、訪問看護事業所、教育委員会、ゆめるん課、福祉課、基幹相談	2
南あわじ市人権教育研究協議会	市域	自治会、老人クラブ、女性会、民生児童委員協議 会、人権擁護委員、手をつなぐ育成会、商工会な ど	5
ひきこもり・不登校のための 連携会議	市域	市役所関係部局、SODA、教育委員会	1
南あわじ市地域公共交通会議	市域	民事連、自治会、当事者団体、商工会、観光団 体、交通事業者、国・県・市行政機関	2
地域サポート型特養意見交換会	市域	地域包括支援センター、施設関係者、行政、社協	1

南あわじ市生活支援体制整備事 業・第1層協議体運営会議	市域	民生委員児童委員、老人クラブ連合会、在宅介護 支援センター、社協、市民協働課、長寿・保健 課、包括支援センター	1
あわじ認知症ネット	広域	医師会、福祉事務所、3市包括支援センター、新淡路病院、伊月病院、3市社協、淡路医療センター	1
淡路地域生活福祉•就労支援協 議会	広域	兵庫労働局、洲本公共職業安定所、県社協、行政	1
あわじ特別支援学校の生徒にか かわる移行支援会議	広域	ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、相談 支援事業所、障害福祉サービス事業所、特別支援学 校、健康福祉事務所、行政	3
淡路障害者自立支援協議会運営 委員会	広域	相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、健康 福祉事務所、行政	5
淡路障害者自立支援協議会こど も連絡会	広域	小学校、特別支援学校、健康福祉事務所、教育事務所、こども家庭センター、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、行政	3
淡路障害者自立支援協議会相談 支援事業所連絡会	広域	相談支援事業所、特別支援学校、障害福祉サービス事業所、健康福祉事務所、行政	12
淡路障害者自立支援協議会サービス管理責任者連絡会	広域	相談支援事業所、障害福祉サービス事業所	7
淡路障害者自立支援協議会居宅 事業所連絡会	広域	訪問介護事業所、相談支援事業所	4
淡路障害者自立支援協議会事務 局会議	広域	3市福祉担当者、洲本健康福祉事務所、地域生活 支援拠点、3市基幹相談支援センター	5
淡路圏域健康福祉推進協議会 福祉部会	広域	医師会、歯科医師会、当事者団体、職能団体、健 康福祉事務所、行政	1
南あわじ市生活困窮者庁内ネットワーク会議	市域	市役所関係部局、社協、関係機関	4
医療的ケア児等連絡会準備会	広域	洲本健康福祉事務所、医療的ケア児等コーディ ネーター、圏域コーディネーター	2
南あわじ市地域公共交通会議	市域	民児連、自治会、当事者団体、商工会、観光団 体、交通事業者、国・県・市行政機関	2
地域サポート型特養意見交換会	市域	地域包括支援センター、施設関係者、行政、社協	1
南あわじ市生活支援体制整備事 業・第1層協議体運営会議	市域	民生委員児童委員、老人クラブ連合会、在宅介護 支援センター、社協、市民協働課、長寿・保健 課、包括支援センター	1
あわじ認知症ネット	広域	医師会、福祉事務所、3市包括支援センター、新 淡路病院、伊月病院、3市社協、淡路医療セン ター	1

(5) 緊急災害時に対応できるネットワークづくり【補助金・善意銀行・共同募金配分金】

第3次計画到達点・・大規模災害が起こった時、救援体制がスムーズに整い、救援活動が行えるよう、行政や関係機関と協議を図りながら、災害救援マニュアルを改訂します。また、日頃の備えや自助、共助の意識啓発などを目的に、ぼうさいカフェや支え合い(防災)マップづくりなどを小地域で行います。

■災害時救援協定の締結

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等)

南あわじ市地域防災計画に基づく災害ボランティアセンターの設置及び運営等に 関する必要な事項を定め、被災者等の生活の早期安定に寄与することを目的に、 行政と協定を締結しました。

■支え合い(防災)マップづくり

取り組みの内容(成果・課題・今

後の方向性等)

平成29年から支え合いマップを推進していますが、継続実施に至っていないのが現状です。部内で検討を重ねた結果、今年度は、危機管理課と連携して事前打ち合わせを行い実施しました。上半期は、合同で市地区自治会長会にて説明を行い、その後三條自治会で支え合い(防災)マップづくりを実施しました。下半期では、福永自治会で支え合いマップづくりを実施しました。

マップづくりの中では住民同士が普段話す機会の少ない自治会内の支え合いや防災について話し合い、それらの意識を向上させるきっかけとなりました。

定例早朝懇談会でも、これまで大きな災害が少なかった地域への防災意識への働きかけが課題との意見がありました。今後も、行政と連携し住民へ意識啓発を行っていくツールとし小地域での話し合いや、支え合い(防災)マップづくりを推進していきます。

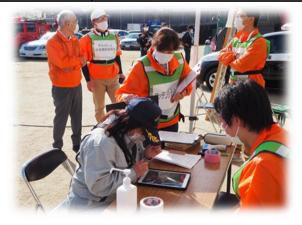
■災害救援マニュアルの見直し

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 防災ワーキングチームにて防災研修を計画し実施。各事業所での、災害時、発 災後の対応を考える機会となりました。今後これら研修や協議を重ね事業所ごとの マニュアルを作成(見直し)していく予定です。

■防災訓練の実施

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 今年度は、11月15日(日)に広田中学校にてこのコロナ禍に、いかに安全安心に受付からマッチング、送り出し、活動、報告まで一連の活動ができるかを検証するため、インターネットによるフォームからの申し込みや、モニターを活用した訓練を行いました。

訓練では、予め打ち合わせのうえ市のネット環境を活用できましたが、災害時にもすぐ対応できるよう、準備をすすめます。





【総合防災訓練のようす】

■ぼうさいカフェ

月日	取り組みの内容・成果・課題・今後の方向性等	参加者数	場所
R2.11.27	『防災・減災研修会』 日頃の備えなど一人ひとりにできる「身近な防災」や普段取り組んでいる防災への備えについて学び、地域の防災意識の向上から日頃の見守りや支え合い活動につなげていくことを目的に実施しました。また、クロスロードゲーム等を通じて、改めて自分たちの地域の現状について考える機会となりました。	40名	湊地区公民館
R2.12.6	『ぼうさいカフェin緑』 南海トラフ地震における緑地域の被害状況やその対応策について、行政の防災対策やマイ避難カードについて学び、地域住民の防災意識の向上や日頃の見守りや支えあい活動のつなげていくことを目的に開催しました。	42名	広田地区公民館







【ぼうさいカフェin緑でのようす】

取り組み② 尊厳が守られ自分らしく生活できるようにします

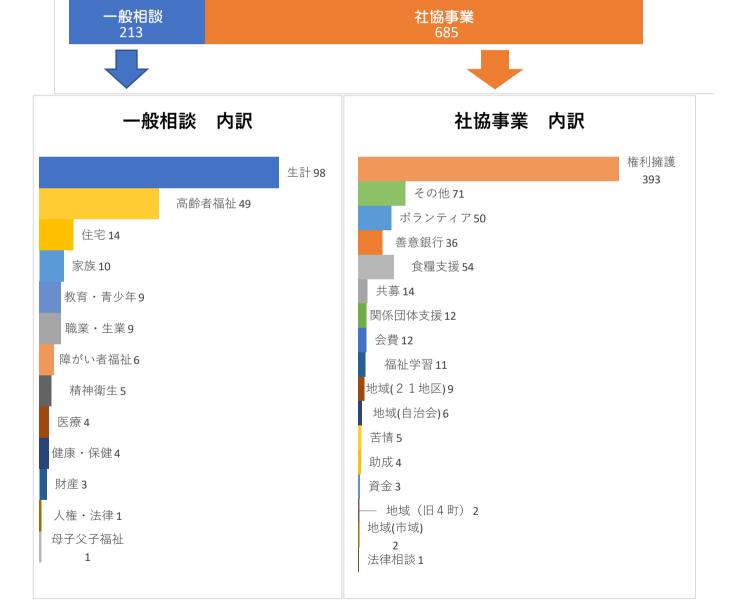
活動項目②-1 相談窓口の強化

(1) 相談窓口の強化【補助金】

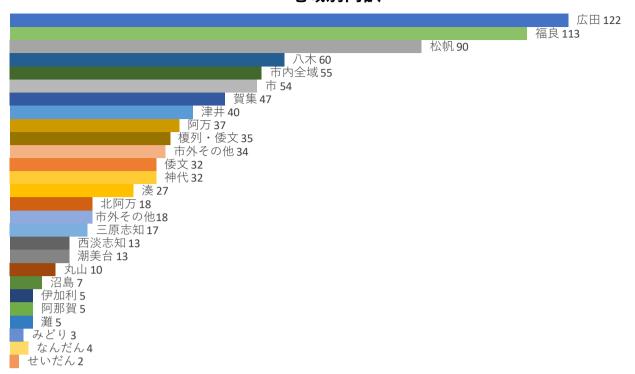
第3次計画到達点・・住民のみなさまに相談しやすい社協として認識・信頼してもらえるよう、日々の相談事業を積み重ねていきます。関係機関、専門職とケース検討会や日々の仕事を通し、ともに連携し、解決に結びつく窓口をめざします。また、住民のみなさまに「相談して良かった」と思われる相談窓口をめざします。

■総合相談事業

今年度から社協に寄せられるすべての相談を生活の困りごと全般に関する「一般相談」と共同募金やボランティア等、社協に関する「社協事業」に分類し、社協へ寄せられるありとあらゆる相談を分析しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、生計および権利擁護や食料支援などの相談の割合が上位を占めました。そうした課題を受け、「ひよっこバザー」や「パントリープロジェクト」などを企画、これらの事業に関連したボランティア相談や善意銀行を通じた食材の寄付が多く寄せられました。



地域別内訳



相談を地域別にみると、広田地区が最も多く、次いで福良地区が多くなっています。地区別にみると、旧4町に支部拠点があった地域からの相談が上位を占めています。これはかつて社協がその拠点を中心に培ってきた地域とのつながりが表れていると推測できます。また、現在の事務所がある広田地区から広がるように相談件数の減少が見られます。拠点から遠い地域で埋もれてしまっているかもしれない相談が少ない地域は、住民同士の支え合いなどから地域で解決する力があることを仮説立てることもできます。社協ではこうした傾向分析に基づいて関係機関と連携し、検証を行っていきます。

《相談経路》

相談者	本人	家族	地域	社協	市役所	他機関	その他	合計
件数	418	74	130	32	114	94	36	898
件数	22	2	12	0	12	9	0	57

※下段数字は、前年度のもの

解決	174	
社協による相談の継続・支援	632	
他機関等の紹介、引き継ぎ	69	
その他	23	
	7	
地域	15	
市役所	42	
福祉サービス	4	
その他	8	

社協会費·共同募金	22
ボランティア活動の紹介、助成等	42
地域福祉活動の支援	20
福祉学習の紹介・調整	4
生活福祉資金	34
食料支援	54
法律相談等権利擁護	401
その他	55

■ケース検討会の実施

取り組みの内容

(地域)·事例共有会議···15回·支援調整会議(生活困窮·自立相談支援事業、

プラン作成、評価)・・・4回

(成果·課題·今 (居宅)·事例検討···週1回 後の方向性等)(相談)·事例検討···週1回

多職種による事例検討会・・・月1回

■職員の専門性、相談援助技術の向上

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 各相談事業毎に事例共有会議、合同での事例検討会議を開催し、職員の抱え込みを防止すると共に多職種が連携し、すべてのライフステージにおける切れ間のない支援体制の構築と社協の総合化をすすめています。また、各職員は積極的に研修を受講し、日々の相談技術向上に努めています。 *

■相談記録の徹底と数値化

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 今年度は、緊急小口資金特例貸付をきっかけに、相談件数や、内容、傾向などが分析でき数値が反映できる行動記録の様式を作成し、その記入を徹底しました。 今年度は試行的に地域福祉部で実施しましたが、今後はより使いやすいものに改善し、社協全体で記録を徹底し、傾向や課題分析ができるようにしていきます。

■障がい者相談支援:市委託事業

障がいのある方の日常生活に関するさまざまな問題に対して相談支援を行っています。相談傾向を見ると、昨年度に比べ「不安解消・情緒安定に関する支援」「家族関係・人間関係に関する支援」の割合が増えています。これは、新型コロナウィルス感染拡大を受けて外出を控えるようになったことや、先行きの見えない暮らしへの不安なども要因として考えられます。

また、成人の知的障害のある方に関する相談が増えており、これまでご家族や就労先の支えで生活できていた方が、これまでの支援だけでは対応できなくなったことが影響していると思われます。50歳代以上の方を新規相談として受理したケースの割合が増えました。

名称	開設日	時間
南あわじ市社会福祉協議会相談支援事業所	 月曜日~金曜日	8時30分~17時15分

《過去5年間の相談者数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
H28年度	41	28	ω	3	1	0	7	12	20	1	5	7	1	0	7	6
H29年度	33	13	1	0	0	0	8	6	16	0	1	4	1	0	6	3
H30年度	54	21	4	1	Ο	Ο	11	5	32	Ο	6	9	Ο	Ο	5	6
R1年度	80	34	6	3	0	1	21	8	38	0	11	10	2	0	6	15
R2年度	67	26	5	2	3	1	20	8	6	10	42	15	1	0	0	0

《支援内容》

福一の明まり、一切では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	障害や 病状のに 関すす援 支援	健康・医療に関する	不解情定すの・安関支	保育・ 教育に 支援	家族・関人係 じし る 支援	家計・経済に関する支援	生活技 術にる支 援	就労に 関する 支援	社加暇にす 会・新加支 援	権利擁護にる援	その他	āt
111	46	65	135	38	118	17	75	26	1	2	21	655
161	48	75	42	42	50	26	23	31	16	0	17	531

※下段数字は、前年度のもの

■基幹相談支援:市委託事業

市内における総合的・専門的な相談支援、地域の相談支援体制等の強化、地域移行・地域定着の推進、権利擁護・虐待防止に向けた取り組みを目的として活動しています。

支援困難なケースへの後方支援、支援者やご家族が困っているケースへの支援など、これまでの相談支援の枠を超えて対応しています。また、自立支援協議会の事務局会議に参加するなど行政との連携を図りながら、誰もが暮らしやすい地域づくりを目指して活動しています。また、10月からは市内で活動する相談支援専門員を対象に事例検討会を実施し、市域の相談支援の質の向上と事業所間の連携を図っています。

(相談対応件数)

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
R2年度	26	0	1	0	0	0	2	0	13	0	2	0	0	0	80	0
R1年度	12	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6	0

(会議への参画)

- ·自立支援協議会 事務局会議
- ・新型コロナウィルス感染症拡大に対する検討会議
- ·淡路精神障害者生活支援連絡会
- ・医療的ケア児支援検討会
- 会議の内容
- ・医療的ケア児等連絡会準備会
- ·自立支援協議会 相談支援事業所部会
- ・日中サービス支援型共同生活援助に関する打合せ
- ・3市基幹相談支援センター打合せ
- ・ひきこもり・不登校のための連携会議

(勉強会・研修会の実施)

・事例検討会

内容

- ·初任者研修受講者へのフォローアップ研修 (圏域コーディネーターとの連携)
- ┃・兵庫県相談支援従事者初任者研修への講師派遣
- ・兵庫県相談支援従事者初任者研修の打合せ

■障害者虐待防止センター:市委託事業

名称	開設日	時間
南あわじ市障害者権利擁護センター	月曜日~金曜日	8時30分~17時15分 ※電話相談は24時間対応

《相談	• 通報者	,通報者》									
本人	家族	事業所	警察	医療 機関	その他	身					
1	1	0	0	0	0	-					

《内容》	>	※重	複あり			
身体的	放棄 放任	心理的	性的	経済的	その他	
1	0	2	0	1	0	

■生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業:市へ職員1名を出向

令和2年10月より、自立相談支援事業の利用が総合支援資金特例貸付申請の条件と定められたこともあり、今年度新規相談件数101件の内、58件は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた方の相談でした。

相談者の大半は、別の要因による収入の減少や債務等の課題を抱えてぎりぎりの生活の中、新型コロナウイルスの影響による収入の減少が追い打ちとなり、教育費用や返済が滞るようになり、相談・申請に至っています。さらに、債務の中でも住宅ローン利用者が多い点も今後の懸念要素です。住宅ローンの場合、解決策である債務整理を行えば住まいを喪失することになるため、当市ではそれを防ぐための特例貸付利用が多く見られました。債務返済のために新たな債務が増えるという悪循環を断ち切るため、貸付以外の生活困窮対策が求められています。

令和3年1月以降、上記の相談対応の急増により、それ以外の相談者への訪問や就労支援に十分に取り組めなかったとの反省があります。新型コロナウィルスの影響は長期化しており、相談体制の見直しも必要です。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
±□≣₩ ≠ ¥b	0	0	(ו	ת	ת)	7	1	1 1	10	0	104
相談者数	6	6	6	5	ດ	ດ	9	1	4	-	2	30	(60)

※()中数字は前年度のもの

《相談者が抱えている問題》※一つのケースで複数の問題を抱えています

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
病	障害	É	メン	住 ま	経	多	家	就職	生	社	家族	介	非 行	ひ	D	刑	<i>□ ///</i>	その他	そ
気	(手帳	死	タル・	υ •	済	重・	計管	活動	活習	会	関係	護	• 中	ح	V		ユニケ	(新型コロ	
•	有	^	ヘル	ホ l	的	過重	理	定	慣	的	家	子	卒 •		•	余	リショ	ロナウィ	の
け	未取	企	スの課	ムレ	木	一)	の課	着困	の乱	孤	族の問	育	高校	り	虐		ンが	ルスの影	
が	得)	図	題	ス	窮	務	題	難	n	立	題	て	中退	親	待	者	苦手	響)	他
17	4	1	17	5	82	34	18	22	1	4	30	12	5	8	4	1	3	58	1

《支援内容》

情報提 供・相 談のみ	他制 度・機 関にぐ	同意に 向けて 取り組 む	プラン 策定 <u>※</u>	十
81	15	1	9	106

※前年度新規受付対応を含む

《地域別相談》

緑	西淡	三原	南淡
12	18	32	39

■生活困窮者等への食材支援

生活困窮の相談者や生活保護世帯へ必要に応じて食材を提供しています。今年度は、33世帯、1団体へ54回の食材支援を行いました。これらの食材は、「おてらおやつクラブ」・コープこうべ・消費者協会が行っているフードドライブで集められた食材や、住民などから寄せられたお菓子やお米など、年間延べ59回提供を受けたものを活用しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、緊急小口資金・総合支援資金(特例)貸付を申請に来られた方や、10万円の特別給付金を得たことで、計画的な金銭管理が出来なくなったケースなどが多くありました。社協の善意銀行のしくみを本人や世帯の自立につなげられるよう、相談内容を分析しながらすすめていきます。

民	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
配布回数	3	4	7	1	3	8	5	1	4	4	7	7	54 (17)

()中数字は 前年度のも の

実施日	タイトル	利用世帯	内容
R3.3.28~3.30	食でつなぐ!南あわじの輪! 架け橋パントリープロジェクト	74世帯	子育てゆめるん課に協力いただき 母子・父子世帯へ、また特例貸付 相談者へ案内し、事前申し込み制 で食材の無料配布を実施。申し込 み世帯のプライバシーへの配慮と 感染症予防のため、時間帯と来所 日を指定し配布しました。





【フードドライブにより寄せられた食材とボランティアによる仕分け作業の様子】

■生活福祉資金貸付事業・法外小口資金貸付事業

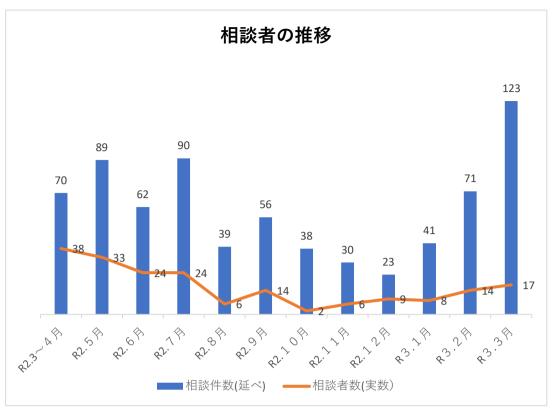
低所得世帯をはじめ障がいのある方や介護が必要な高齢者等のいる世帯に対して、資金の貸付と民生委員児童委員が必要な援助を行うことにより、経済的自立と生活意欲を高めると同時に在宅福祉及び社会参加を促し、世帯が安定した生活を営むことができることを目的として貸付をしています。また、法外小口資金は生活保護受給までの一時的な生活つなぎ資金という名目が大半を占めています。相談時から福祉課と連携を図りながら個々のケースに対応できた一方、地域との関係調整など世帯の自立に向けた連携と協働のあり方を検討していく必要があります。

	資 金 種 類	今年度	前年度	貸付(償還)中の件数
1	数 育 支 援 資 金	1	3	37
	生業を営むために必要な資金	0	0	1
福	技能を習得するために必要な資金	0	0	0
	住宅の増改築や改修のために必要な資金	0	0	0
÷ι⊦	福祉用具を購入するために必要な資金	0	0	0
祉	中国残留邦人の年金追納に必要な資金	0	0	0
	療養のために必要な資金	0	1	1
資	介護・障害福祉サービスに必要な資金	0	0	0
只	冠婚葬祭に必要な資金	0	0	1
	住居の移転等に必要な資金	0	1	6
金	その他日常生活上一時的に必要な資金	0	0	2
	緊急小口資金	1	1	10
i	総 合 支 援 資 金	0	0	21
	不動産担保型生活資金	0	0	0
3	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0
特例貸付	緊急小口資金	135	0	135
サ付	総合支援資金 生活支援費	58	0	58
	去 外 小 口 資 金	46 (43)	65 (43)	

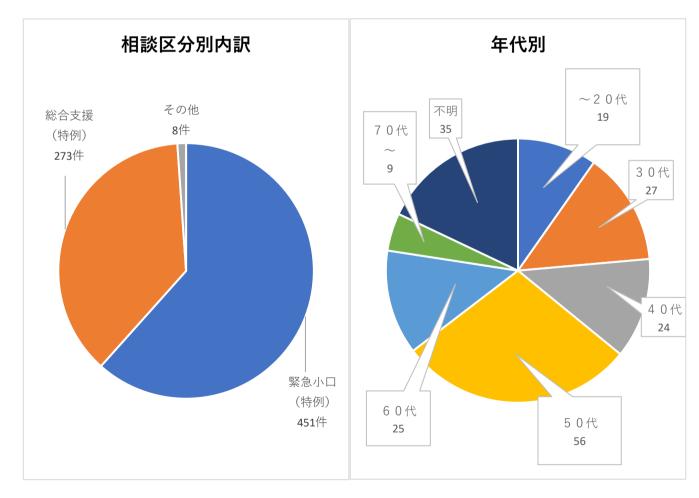
^{※()}中数字は、年度内に償還が完了したもの 前年度分は年度末の数値

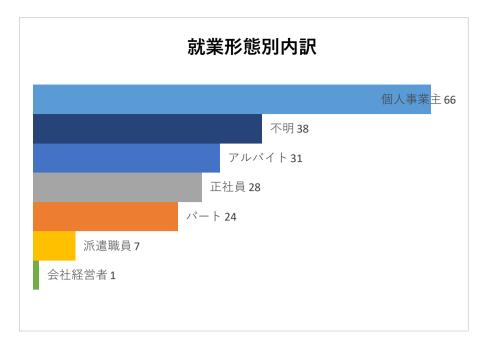
■新型コロナウイルス特例貸付

新型コロナウィルス感染症拡大の影響で、休業や失業等により世帯の生計維持が困難となっている世帯を対象に生活再建を行う間の生活費の貸付を令和2年3月25日から開始しました。この間の経済状況の悪化に合わせて給付金をはじめとする公的支援が手元に届くまでに生活維持が困難に陥った世帯も多く、今後も相談時から自立相談機関や各関係機関と連携しながら、生活に必要な情報を提供するとともに世帯の自立に向けて安定した生活を維持できる支援を進めていきます。









相談区分では、10月以降長引くコロナ禍の影響により、総合支援資金の借入相談が増加しました。年代別にみると50代以下の世代が相談の約6割を、就業形態別では個人事業主からの相談に次いで、解雇などで職を失った方からの相談が多く寄せられています。また、単身世帯やひとり親世帯、低所得世帯の割合が多くなっており、もともと生計に課題を抱えていた世帯が、よりコロナの影響を受けたことがわかります。

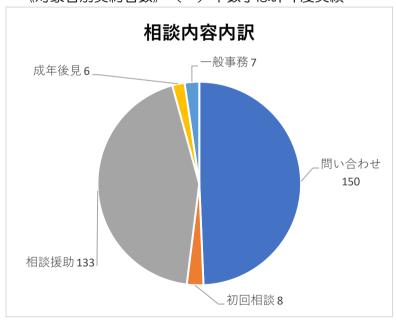
これら世帯の課題は資金の貸付では解決が困難であり、生活困窮者を支える仕組みをつくり、現況を乗り越えることが必要となっています。

■日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、援助を行っています。生活困窮者自立支援事業で受けた相談の中には、金銭管理に不安を覚えている方もおり、本事業の利用も検討する等、相談を一体的に受け止め、相談者に必要な支援を行っています。

初回相談	8 (4)	件	新規契約者数	5 (1)	人
相談回数	310 (552)	件	利用実人数	26 (21)	人

《対象者別契約者数》()中数字は昨年度実績



相談内容の傾向として、問合せが 半分以上占めています。なかでも家 計管理に関する相談、関係機関から は支払いに関する問い合わせ、本人 からは福祉サービスの手続きや、健 康面のことなど相談内容は多岐にわ たります。

また、新規契約者の内訳をみると 年々生活保護受給者が増えていることが特徴で予防的な支援が求められます。

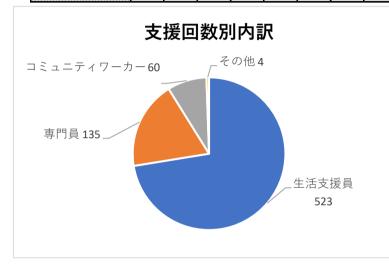
相談者に今後どのような課題が生 じ、どのような支援が必要になるのか を考えた上で本人に寄り添いながら、 家族、関係機関に対して必要な情報 を提供・共有しながら支援していま す。

令和3年3月31日時点契約件数

契約者	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	4 件	10 件	8 件	0 件	22 件

《過去5年間の支援回数》

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延支援回数(回)
平成28年度	48	51	44	48	47	50	53	48	47	50	39	44	569
平成29年度	29	30	29	28	30	21	35	26	33	34	35	30	360
平成30年度	39	41	45	49	49	42	44	40	40	54	49	52	544
令和元年度	60	60	55	65	61	59	65	57	59	55	54	49	699
令和2年度	52	54	59	63	61	59	64	60	62	53	60	75	722



契約者数は昨年度と比べると横ばい ですが、相談件数、支援回数は年々 増え続けています。こうした権利擁護 ニーズの高まりを受け、利用者宅へ訪 問し生活費を受け渡す等の具体的な 援助を行う生活支援員を生涯活躍推 進室が実施した「働くシニア応援プロ ジェクト」を通じ、新たに3名のシニア 世代を生活支援員として採用しまし た。今後も、事業を通じて地域におけ る権利擁護の担い手を養成し、住民 が活躍できる場を更に広げていきたい と思います。

(2) 相談支援体制の強化【補助金】

第3次計画到達点・・ 社協では、行政や関係機関と連携し、切れ目のない相談支援に取り組んでいま す。次の5年間では、包括的な相談支援の仕組みの「見える化」に取り組み、南あわじ市における相談支 援体制を構築します。

■庁内ネットワーク会議※再掲

取り組みの内容 (成果·課題·今 後の方向性等)

今年度も住民生活に関わる行政の担当部局の方に参集いただたき、4回の会議 を開催しました。自立相談支援事業、住居確保給付金、特例貸付の実績を報告 することで、新型コロナウィルスの影響が広範囲に市民生活に影響が出ている現状 を共有することができました。今年度は生活再建のためのプランに対する意見をい ただく調整支援会議機能に重点を置き開催しましたが、社協や福祉課以外の職員 に参加いただくことで、支援の幅を広げることができました。

■勉強会(不定期開催)※再掲

取り組みの内容 (成果·課題·今

毎年、社会福祉協議会と福祉課との連携強化を目的に開催しています。今年度 は令和3年2月に、「児童虐待」のテーマで、子育てゆめるん課職員にご講義いただ lきました。福祉課、社協ほか庁内から約20名の参加がありました。コロナ禍の影響 後の方向性等)が子どもたちに「虐待」という形で出ている現状を理解し、より一層の連携の必要性 を共有することができました。

■包括的な相談支援体制構築に向けた研究会

取り組みの内容 (成果·課題·今 後の方向性等)

第2期地域福祉計画と第4次地域福祉推進計画を合同で策定作業を、「重層的 支援体制整備事業」ほか国の政策動向を見据えた議論を行っています。また、県 内事務局長自主勉強会で県下の動向や意見交換を行いました。

活動項目②-2 思いに寄り添ったサービスの開発・充実

(1) ニーズに応じた地域福祉サービスの開発【補助金】

第3次計画到達点・・地域資源の整理を行い、ニーズを把握、分析します。既存のサービスでは対応できないニーズに対し、住民と一緒に新たな事業を展開します。

■ニーズの把握

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) ニーズ把握のため小地域での話す会を実施できるよう、生活支援コーディネーターとエリアのワーカーが連携し、支部運営委員会や市民交流センターへの聞き取りなどを通して情報把握に努めています。

■地域資源の把握

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 第1層・第2層生活支援コーディネーター、エリアワーカーが協力し、八木地区をモデル地域に設定するなど、社会資源の『見える化』に取り組みました。毎月市民交流センターなどに訪問聞き取りをして、地域の活動者・グループなどを把握し、さらに聞き取り調査を行っています。







【ニーズと資源を把握するため地域での聞き取りを行っています】

(2) 地域福祉サービスの充実【補助金・受託金・共同募金配分金】

第3次計画到達点・・開発したサービスや継続実施しているサービスについて、PDCAサイクルに基づき、計画(Plan)・実行(Do)・評価(Check)・改善(Act)するシートを作成し、定期的に見直す仕組みをつくることで地域福祉サービスの充実を図ります。

■サービス評価シート

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等)

事業ごとに計画書・報告書を作成し、事業終了後には部内での情報共有にも努めています。また、課題については、毎月開催のワーカー連携会議にて話し合いの場を持ち、改善に向けて検討を行っています。

■利用者アンケート

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等)

福祉事業部では、事業ごとにアンケートを実施しています。今年度はGoogleホームを活用しアンケートを実施しました。利用された方から意見が出しやすい方法を検討し、内容の共有と毎月開催のワーカー連携会議にて振り返りを行っています。

活動項目2-3 介護保険・障がい福祉サービスの充実

(1) 介護保険サービスの充実【介護報酬・事業収入】

第3次計画到達点・・地域で暮らす一人の生活者という視点で利用者をとらえ、その人らしく生きられるように支援することを目指します。個別の課題から、地域の課題を抽出し、関係機関と連携しながら、必要な地域資源の拡充にも貢献していきます。

■居宅介護支援事業

今年度は、昨年に比べて、ケアプラン作成件数は増加しました。民生委員、病院、地域福祉部のワーカー、相談支援専門員、これまで担当した利用者のご家族などからの依頼に加え、地域包括支援センターから、いわゆる困難事例の相談も数件ありました。どのケースについても、まず本人の希望を踏まえ、その人らしく、暮らせるように支援していくことを目標に業務にあたりました。

ケアマネジャーそれぞれが経験を重ね、一人一人が、より利用者本位での関わりや家族内の関係性も視野に入れ、関わりを持つことができてきています。利用者、家族の立場を理解し、住み慣れた地域での生活を継続できるよう、社会資源への調整なども含め、関わりを持てるように支援を行っていきたいと思います。

《ケアプラン作成件数》

※合計欄下段()中の数字は、前年度のもの

. " / /	<u> </u>	. , , , , ,	~~//												
F	T)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用	l者数	167	165	176	174	171	181	181	182	182	177	175	175	2,106 (1,973)	6.7%
	支援1	38	40	44	41	41	43	45	46	47	46	46	39	516 (480)	7.5%
	支援2	42	41	42	42	39	38	37	38	40	39	39	30	467 (440)	6.1%
要介護度	1	52	51	53	50	48	53	56	54	52	49	49	50	617 (595)	3.7%
別	2	18	15	18	21	21	25	24	22	20	18	19	18	239 (265)	Δ9.8%
利用者内訳	З	9	00	9	9	11	11	10	13	13	14	11	10	128 (97)	32.0%
U/X	4	4	6	6	7	6	6	5	5	5	6	6	7	69 (45)	53.3%
	5	4	4	4	4	5	5	4	4	5	5	5	5	54 (51)	5.9%

《要介護認定調査件数》

※合計欄()中の数字は、前年度のもの

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
0	1	0	4	თ	1	4	0	4	0	2	0	19 (60)

■訪問介護事業

【サービス概要】65歳以上の要支援または要介護状態にある人等を対象に、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、ホームヘルパーが利用者宅を訪問して、入浴・排泄・食事等の介護や、調理・洗濯・掃除・買い物等の家事を行う自立支援のための援助を行っています。

【総括】新型コロナウイルス感染症に対する不安の日々の一年でした。感染症に対する理解、対応の確認、現状の感染症対策の見直しを行ってきました。ヘルパーが濃厚接触の疑いに該当するケースはありませんでしたが、利用者が利用している事業所で発症したケースがあり、出勤自粛やシフト調整することが多々ありました。手探りで不安な中で市内の訪問介護事業所と行政による意見交換会が計4回あり、事業所内だけではなく、行政や他事業所と連携していくネットワークが出来たことは大きな強みとなりました。課題の共有や行政への提案、利用者への発信、主任ケアマネとの意見交換会なども行いました。

- ①業務内容の見直し:業務の整理・見直しすることが多々ありました。「計画的に効率よく」を意識しながら、各職員の事務負担の軽減・残業時間の減少を図ってきましたが、次年度も継続して課題に取り組んでいきます。
- ②各書式の見直し:フェイスシート、アセスメントシート、訪問介護計画書、モニタリング表などの様式を見直し、パソコンでの入力にシフトしました。新たな様式やパソコン入力に慣れることに時間を要していましたが、 先々の事務負担の軽減に繋がっていくと思います。また、様式を通じて利用者の望む暮らしや支援の方向性が見えたり、アセスメントの視点の向上にも繋がっていくことを狙いとして見直しました。
- ③情報共有の徹底:連絡ノートは様式や確認方法を変更し、情報を収集する意識は高まったと思います。担当者会議の議事録は常勤職員は全員回覧、担当の登録ヘルパーにも回覧しています。定例会は新型コロナウイルス感染症予防により書面開催のほうが多かったのですが、会議を開催しないことで見えた課題がありました。様々な取り組みをしても、職員の意識の有無が第一に重要です。「聞いていない」「知らない」ではなく、「知ろうとする姿勢」が当たり前となるように努めていきます。
- ④収入の増加:利用実績、新規利用状況、入院者(理由も含む)、利用終了者(理由も含む)を毎月の定例会で共有してきました。また、ミニ研修として自己覚知・自己研鑽の機会を作りました。今年度の新規利用者は18名、利用終了者は15名でした。収入の増加には至りませんでしたが、毎月基本シフトを確認しながら、積極的に利用を受け入れていく体制を整えていきます。

サービス別利用状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用者数		69	69	76	74	73	74	72	72	72	68	66	69	854 名 (916名)	△6.8%
身体介護	延人数	171	183	182	183	235	248	271	250	285	272	253	286	2,819 名 (1,662名)	69.6%
身体介護 +生活援 助	延人数	104	100	87	108	106	104	127	128	113	104	103	107	1,291 名 (1,528名)	△15.6%
生活援助	延人数	285	294	264	271	239	229	218	194	199	176	182	209	2,760 名 (4,018名)	∆31.3%
基準型	延人数	59	66	64	55	53	61	51	47	53	49	39	42	639 名 (751名)	△14.9%
基準緩和型	延人数	158	169	187	202	183	180	169	162	169	147	134	152	2,012 名 (1,837名)	9.5%
=	+	(850)	812	784	(904)	816	(831)	836	781	819	748	711	796	9,521 名 (9,796名)	Δ2.8%

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

要支援•要介護度別利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	17	18	19	19	18	18	16	15	15	15	14	16	200 名
要支援2	18	17	18	19	20	19	18	19	19	19	17	16	219 名
要介護1	17	17	21	18	18	19	19	19	19	16	18	18	219 名
要介護2	8	8	8	8	8	8	8	7	8	7	7	7	92 名
要介護3	5	5	5	5	5	6	7	8	7	7	6	6	72 名
要介護4	2	2	3	З	2	2	2	2	2	2	3	3	28 名
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	23 名
計	69	69	76	74	73	74	72	72	72	68	66	68	853 名

地域別契約状況(令和3年3月31日現在)

緑	10	件
西淡	23	件
三原	16	件
南淡	23	件
<u> </u>	72	件

居宅別依頼状況(令和3年3月31日現在)

南あわじ市社会福祉協議会	46	件	F(三原)	7	件
A (緑)	5	件	G(西淡)	1	件
B (緑)	4	件	H(南淡)	1	件
C (三原)	1	件	南あわじ市地域包括支援センター	2	件
D (三原)	2	件			件
E(三原)	3	件	計	72	件





(2) 障がい福祉サービスの充実【介護報酬・事業収入】

第3次計画到達点・質の高いサービスを提供できる体制が整うことで、利用者の思いに寄り添った支援を展開していきます。また、地域で暮らす人として普段から住民と地域、関係機関が一緒になって見守り、助け合えるまちづくりをすすめていきます。あわせて、当事者が「助けて」と言える、孤立する人がいないまちづくりを目指します。

■障害者居宅介護事業

【サービス概要】障害のある方の地域での生活を支えるために、ホームヘルパーが自宅を訪問して、入浴・排泄・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談や助言など、生活全般にわたる援助をおこなっています。

【総括】今年度は新規6名、利用終了者3名でした。介護保険の利用者は入院する方や施設入所される方等が多いですが、障がい者支援ではそのような状況はごくわずかでした。収入増加には至っていませんが、次年度は35名の利用者登録もしくは、利用日数の増加を目指し、安定した収益が得られるように努めていきます。ほか、移動支援の利用者は少なく、定期利用の登録は現在2名です。買い物等の外出で利用を希望した時の随時利用が多い現状です。

また、ミニ研修として、全国社会福祉協議会が発行したパンフレット「地域での支えあい ~障がい理解への第一歩~」を全職員に配布しましたが、職員から障がいについてもっと理解を深めたいという声があがっています。一人ひとりの特性を理解し、正しい知識をもって支援していくことができるような取り組みをしていくことが課題です。

※新型コロナウイルス感染症予防等についての取り組み状況は訪問介護事業(介護保険)と同様。

サービス別利用状況

F	Ħ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用	者数	32	32	33	32	32	34	33	31	31	32	33	34	389 ^名 (361名)	7.8%
身体介護	延人数	191	204	197	194	200	211	209	202	203	189	197	219	2,416 名 (2,371名)	1.9%
家事援助	延人数	288	289	277	261	272	286	281	262	275	279	287	333	3,390 名 (3,939名)	△13.9%
通院介 助 (身体 あり)	延人数	1	1	2	1	1	1	1	4	7	5	4	5	33 名 (14名)	235.7%
通院介 助 (身体 ない)	延人数	က	2	5	5	2	6	7	თ	1	1	2	2	39 名 (58名)	∆32.8%

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

障がい支援区分別利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
区分2	16	16	16	16	15	16	14	13	13	14	14	14	177 名
区分3	10	10	10	0)	10	11	12	11	11	11	12	12	129 名
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1 名
区分5	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22 名
区分6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60 名
āt	32	32	33	32	32	34	33	31	31	32	33	34	389 名

地域別契約状況(令和3年3月31日現在)

緑	2	件
西淡	4	件
三原	14	件
南淡	14	件
計	34	件

相談支援事業所別依頼状況(令和3年3月31日現在)

南あわじ市社会福祉協議会	27	件
A(三原)	2	件
B (三原)	1	件
C(洲本)	3	件
D (洲本)	1	件

■居宅生活支援事業

ļ	3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 対前年度比
利用	者数	1	2	თ	2	1	2	1	1	1	2	2	2	20 名 (32名)
移動支援	延人 数	14	7	23	21	16	16	12	14	16	15	17	15	186 名 (278名)
通所•通 学支援	延人 数	0	Ο	1	Ο	0	0	Ο	0	0	0	0	Ο	1 名 (147名)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

■計画相談支援・障害児相談支援【事業収入(相談支援給付費)】

《計画相談》

障害福祉サービスの利用を希望している方や緊急時にサービス利用を検討している方を対象に相談支援を行っています。利用者によってモニタリング期間が違っているため、月ごとの件数にばらつきがあります。サービス利用を希望するものの続かない、続けられない方がいるのも現状です。サービスにつなげるだけの支援では対応できないことが多く、個別性を重視したケアマネジメントが求められます。

新型コロナウイルスに対する感染症対策を取りながら、自宅や事業所等への訪問やケース会議を実施することで、利用者さんの不安に少しでも寄り添う支援ができました。前年度に比べると、利用者数も増えており収入増につながっています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	R2年度	53	51	60	55	62	54	55	62	54	54	62	53	675
	R1年度	47	44	43	44	42	44	46	50	49	41	38	50	538

《児童相談》

発達に心配のあるお子さんの相談支援を行っています。手帳を所持しない未診断のお子さんや親子ともに支援が必要なケースがあります。お子さんのライフステージに応じた支援機関と連携を図りながら、必要な先へつなぐ支援を実践しています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、学校が休校になったり事業所が休所したりするなど、予測しなかった事態が起こったため、お子さんだけでなく、保護者の不安も大きく生活リズムを崩すお子さんもいました。下半期には、次のステージへのつなぎの支援が例年同様に多くなっています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	R2年度	37	36	43	44	38	26	32	31	32	29	28	34	410
利用有数	R1年度	30	30	39	35	36	28	34	38	42	27	35	43	417

■地域定着支援【事業収入(地域定着支援サービス費)】

24時間365日住み慣れた地域でその人らしく生活できるように、日常生活全般を支援しています。居宅で単身で生活する障がい者が対象となります。現在、契約中のケースはありません。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	R2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	Ο	0	0	0	0
利用有数	R1年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0







■生活介護(なでしこデイサービスセンター)

【サービス概要】

常時介護等を必要とする障がい者の方に、食事・入浴・排泄等の介護やレクリエーション、日常生活上の支援を提供しています。

【総括】新型コロナウイルス感染症の発生予防のため、通常の感染対策に加え、あらゆる出来る対策を講じてきました。また、兵庫県の新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業を活用し、感染症対策の整備を行いました。(加湿空気清浄機の増設、施設内消毒、衛生用品の確保等)感染予防を優先し、出来なかったことも多くありましたが、下半期はコロナ禍においても出来ることを探りながら、事業を実施しました。利用状況については、4月から特別支援学校の卒業生1名を受け入れしています。新規利用を希望される方が数名いましたが、受け入れが困難な状況となっています。

【進捗状況】

- ①個別マニュアルの作成:来所してから帰るまでのスケジュールに沿った支援に対する細かい手順(マニュアル)を個別に全員分作成しました。次年度は、このマニュアルを定期的に見直ししながら活用し、ケアの統一を図ること・リスクマネジメントの強化を意識した支援に努めていきます。
- ②社会活動の機会を作る:新型コロナウイルス感染症の影響により、地域に出て行う活動機会がつくれませんでしたが、社協が募ったボランティアの方による手作りマスクの包装作業を利用者の方々が担って頂いたり、プランターに花を植えて玄関前に設置したほか、年末の大掃除を共に行うなど、事業所内で出来ることを行いました。今後もご利用者の個々の強みに応じて事業所内で出来る活動も含めた活動機会を作っていきます。
- ③かぞく会の定期開催:新型コロナウイルス感染症の影響により、実施することが出来ませんでした。コロナ禍において各家庭で新たな課題や不安が生じたと思われます。状況を見ながら、情報を共有する機会を作っていきます。
- ④安定した運営:年間稼働率は92.9%でした。新型コロナウイルス感染症予防のために、年度当初は利用を控える方が若干名ありました。最初の緊急事態宣言が解除された頃から通常通りの利用に戻ってきましたが、多少の影響はみられています。今後も感染症予防とサービスの質の向上を図りながら、安定した運営、稼働率の向上に努めていきます。

●登録状況

<u> </u>				
市別利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男性	4	6	0	10
女性	4	7	0	11

新規	1
中止	0
終了	0

●障害支援区分の状況

区分利用者数	支援区分3	支援区分4	支援区分5	支援区分6	1	平均支援区分
男性	0	1	2	7	10	5.6
女性	0	2	1	8	11	5.5

●月別利用状況

	լ և	r											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所した日数	22	19	22	22	20	22	22	20	20	19	19	23	250⊟
用別したロ奴	22	19	22	22	20	22	22	20	20	פֿ	פֿ	2	(250日)
実人数	20	20	20	20	20	19	21	20	20	19	19	21	19.92人
美八数	20	20	δ	Δ	Δ	פ	۷1	Δ	20	פ	פֿ	<u>۷</u> -	(20.8人)
延べ利用者数	197	185	212	011	192	192	212	184	194	156	167	205	2298人
延 八 利 用 白 奴	197	100	212	211	3	192	212	104	194	150	5	2	(2,269人)
今年度 稼働率(%)	89.5	97.4	96.4	95.9	91.5	87.3	96.4	92.0	97.0	82.1	87.9	89.1	92.9%
前年度 稼働率(%)	87.1	89.1	89.0	91.7	91.5	87.5	92.6	90.9	92.8	86.0	88.5	92.7	90.0%

●曜日別利用登録数 1日定員10名

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

年度	月	火	水	木	金
令和元年度	10	11	10	10	10
令和2年度	10	11	10	10	11

●行事

月	内 容	月	内 容
4月	花見	10月	ハロウィン
5月	手作りマスク包装作業	11月	花植え
6月	工作(風鈴作り)	12月	クリスマスバイキング・大掃除
7月	手作りおやつ	1月	工作(お正月)
8月	8月 工作(消臭剤作り)		おやつ作り(バレンタイン)
9月	焼肉(昼食)	3月	工作(ひな祭り)



「地域で暮らし続けたい」に寄り添ったサービスを提供しています

■児童(なでしこデイサービスセンター)

【児童発達支援・放課後等デイサービス全体総括】

コロナ禍の中、利用控えや感染予防のための手間の増や収益のマイナスが発生する一方で、「安全にサービスを提供する」ということについて見直すきっかけとなりました(具体的な対応については上記生活介護報告と同様)。また、児童通所サービス事業所間で新型コロナウイルスに関する情報を共有し、クラスター発生時の対応について検討し対応マニュアルを作成する等、事業所同士のつながりも強くなってきました。ボランティア作成のマスクやお守りを配布することで、ご利用者に社協活動の一端を周知することができました。

- ①本人支援:相談支援専門員、保育·教育機関と丁寧に情報共有し、日常生活をスムーズに楽しく過ごすための支援につなげています。
- ②家族支援:保護者同士が気軽に話せる「おしゃべり会」を開催する予定でしたが、新型コロナ感染予防のため実施できませんでした。
- ③人材育成:ケース検討会(7回)や所内研修(2回)を実施し、スキルアップに努めました。
- ④職場環境の整備:島外から通勤していた新任職員が、県の「地方部における住宅確保促進事業」を利用して転居し、就労しやすい環境を整えることができました。
- ⑤安定した運営:月一回の定例会議で運営状況を共有し、適正な運営について検討しました。新規利用者が25名となり、すでに次年度に利用調整待ちの方が6名おられる状況となっています。目標の稼働率95%は達成できていませんが、児童指導員一人当たりの療育回数は昨年比120%となっています。

【児童発達支援・放課後等デイサービス全体課題】

①研修機会の確保

外部研修がほぼ中止になり、職員のスキルアップの機会が減っています。リモートによる研修等も活用しながら、新たな研修体制を検討する必要があります。

②兄弟姉妹の支援

療育の場に同席する兄弟姉妹も多く、それが程よい刺激になることもある反面、落ち着いて課題に取り組む妨げになることもあります。療育を受けない兄弟姉妹が利用できる保育ボランティアや居場所の確保等、環境整備が課題です。

③安定した運営

児童発達支援管理責任者の育成等、スムーズな世代交代や職員の定着が課題です。

■児童発達支援(なでしこデイサービスセンター)

【サービス概要】

- 未就学児童を対象とした療育を行っています。(臨床心理士、臨床発達心理士等による個別訓練) 【総括】

新規利用者は21名(昨年16名)。 就学に向けた相談が増えたことで、相談支援専門員の必要性が関係者間で共有できた結果、医療リハビリだけではなく療育も使った方がよいと病院のセラピストから勧められたケースや、他の事業所の療育内容に満足できず、当事業所に変更されるケースが見られるようになりました。 こども連絡会で関係機関と顔見知りの関係ができていることや、療育の成果が親同士の口コミで広がったりしている成果です。

【課題】

児童指導員3人の体制では、週1回の訓練を提供することが難しい状況になっています。新規ケースは 集中的に療育を受けた方が成果があがりやすいケースも多く、人員体制をどうするか検討が必要です。

●<u></u>登録状況 (人)

市別利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男児	21(23)	18(13)	0	39(36)
女児	3(4)	6(4)	0	9(8)

※()中の数字は、前年度のもの

●月別利用状況 (※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせてのもの

<u> </u>		<u> </u>	1-75 1 1	- , ,			***	ノー	<u> </u>			1071-	
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	20	18	21	21	19	21	23	19	20	20	18	21	241⊟ (248⊟)
実人数	29	26	34	33	37	40	39	41	43	45	44	47	458人
大八奴	29	20	54	55	5	40	39	41	7	7	44	47	(427人)
延べ利用者数	70	77	88	86	98	107	106	101	113	107	107	114	1,174人
座, 州市日数	70		00	00	50	101	100	101	110	107	101	- 1 +	(1,151人)
今年度 稼働率(%)	70.5	81.1	76.7	75.7	89.5	83.9	82.6	94.0	95.5	87.1	92.0	90.5	84.7%
前年度 稼働率(%)	80.5	87.1	86.4	80.0	83.9	90.0	91.3	94.3	92.9	101.5	100.0	105.2	90.9%

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

●その他の活動状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
事業所見学	1	4	4	З	3	0	2	З	1	0	З	2	26 (17)
インテーク	0	1	4	2	4	1	1	3	1	1	1	1	20 (17)
保育所等訪問	0	0	1	4	1	1	1	0	1	0	2	0	11 (17)
個別支援会議	0	0	0	0	0	1	О	0	0	0	0	2	3 (11)
発達検査	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2	10 (6)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

■放課後等デイサービス(なでしこデイサービスセンター)

【サービス概要】

小学生を対象にした療育を行っています。(臨床心理士、臨床発達心理士等による個別訓練)

新規利用者は4名(前年度10名)と半減しています。新型コロナ感染予防のため、夏休みの集団療育は 実施できませんでした。

【課題】

社会性を身につける等、集団療育も必要な児童については、感染予防に努めながら、小集団(2~3名)

の療育や目的別のペアレント・トレーニングの実施について検討します。

●登録状況 (人)

<u> </u>				(, ,,
市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	1
男児	45(42)	27(26)	3(5)	75(75)
女児	13(13)	5(6)	2(2)	20(23)

※()中の数字は、前年度のもの

●月別利用状況	●月別利用状況 (※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせてのもの)												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	숨 計
開所した日数	18	15	17	19	16	19	18	17	16	17	16	19	207日
p 9// 10 / C = 3x													(215⊟)
実人数	68	69	65	77	73	78	76	77	71	72	72	76	874⊟
一大八奴				' '	10	'	10	' '	' '	12	12		(1,039⊟)
延べ利用者数	78	77	73	88	81	86	84	87	78	76	77	85	970人
延、利用自数	0	1 1	13	00	5	80	04	01	20	2		85	(1,240人)
今年度 稼働率(%)	70.5	81.1	76.7	75.7	89.5	83.9	82.6	94.0	95.5	87.1	92.0	90.5	84.7%
前年度 稼働率(%)	80.5	87.1	86.4	80.0	83.9	90.0	91.3	94.3	92.9	101.5	100.0	105.2	90.9%

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

●その他の活動状況

●での他の治型状状													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	숨 計
事業所見学	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3 (6)
インテーク	2	0	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	8 (11)
学校等訪問	0	0	1	1	0	0	1	თ	2	0	0	1	9 (22)
個別支援会議	0	0	3	0	2	0	0	1	0	1	0	2	9 (23)
発達検査	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	5 (10)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの



取り組み③ 誰もがつながりあえる人づくり・場づくりに取り組みます

活動項目③-1 見守り・支え合いをすすめる人づくり

(1) 学校・地域での福祉学習の推進【補助金】

第3次計画到達点・・学校関係者を対象に福祉学習研修会を行い、福祉学習の内容を検証し、振り返りを行い、協同してプログラムづくりを行います。それを基に作成した学校向け福祉学習パンフレットを配布し、市内すべての学校での福祉学習の実施を目指します。福祉学習や福祉の出前講座を実施し、参加した人が自分の地域のことや、相手の気持ちを理解し、近隣の人の暮らしに目を向けることで、活動できる人を増やします。

■福祉学習プログラム

赤い羽根共同募金配分金を講師派遣費用として活用することで、地域・学校での福祉学習の拡充に努めています。今年度は、福祉学習用貸し出し資材の消毒を徹底するなどコロナウイルス等の感染症対策を行い、体験学習メニューなど事前打ち合わせを学校側と十分に協議しており、市内小学校11校、中学校5校での学習を計画し、ほぼすべての学校で福祉学習を行うことができました。

学校での学習の機会やメニューは増えていますが、地域からの要望は少ない現状からも今後は、地域での学習の機会を増やせるよう、コロナ禍における地域向けメニューの開発に努めたいと思います。

【学校での福祉学習プログラム】

月日	内容	学校名
R2.9.14	視覚障がいのある当事者のお話、白杖体験	広田中学校
R2.9.15	聴覚障がいのある当事者のお話、手話学習	阿万小学校
R2.9.17	車いす体験学習	三原中学校
R2.9.18	視覚障がいのある当事者のお話、点字学習	湊小学校
R2.9.24	車いす体験学習	広田中学校
R2.9.25	聴覚障がいのある当事者のお話、手話学習	湊小学校
R2.9.30	車いす体験学習、アイマスク・白杖体験学習、高齢者疑似体験学習	南淡中学校
R2.10.12	視覚障がいのある当事者のお話、白杖体験	北阿万小学校
R2.10.19	車いす体験学習	北阿万小学校
R2.10.19	車いす体験学習	神代小学校
R2.10.26	視覚障がいのある当事者のお話、点字学習	市小学校
R2.10.26	高齢者疑似体験	倭文小学校
R2.10.29	社協の役割や仕事内容について	賀集小学校
R2.10.30	視覚障がいのある当事者のお話、白杖体験	広田中学校
R2.11.9	視覚障がいのある当事者のお話、点字学習	松帆小学校
R2.11.9	車いす体験学習、高齢者疑似体験	賀集小学校
R2.11.19	車いす体験学習	西淡中学校
R2.11.25	車いす体験学習	榎列小学校
R2.12.1	車いす体験学習	市小学校
R2.12.10	視覚障がいのある当事者のお話、点字学習	八木小学校
R3.2.16	車いす体験学習	榎列小学校
R3.2.18	災害ボランティアセンターについて	福良小学校
R3.2.19	聴覚障がいのある当事者のお話、手話学習	福良小学校
R3.2.25	車いす体験学習	福良小学校



【こんなときだからこそ体験してほしい】

■福祉資材 の貸出と整備

イベントの減少から貸出件数は減少していますが、福祉学習は例年通り実施しているため、前年度並の貸出件数となています。

山什致となています。			
資材名	数量	貸出数	貸出先
車いす	20	170	個人、子ども会、小学校、中学校、地域団体
アイマスク	50	102	小学校、中学校
白 杖	20	93	小学校、中学校
高齢者疑似体験装具	6	10	高等学校、特別支援学校、中学校
点字盤	50	159	小学校
み~あ着ぐるみ	1	0	
テント	6	6	ボランティアグループ、地域づくり協議会
ワイヤレスマイク	1	0	
音響セット	1	0	
プロジェクター	2	0	
スクリーン	2	1	サロン
DVDデッキ	1	1	サロン
DVD	-	0	
輪投げ	2	3	サロン、小学校PTA
室内グラウンドゴルフゲーム	1	1	サロン
コミュニケーション麻雀	2	1	サロン
綿菓子機	1	1	お寺、
ポップコーン機	1	0	
ビンゴゲーム機	1	1	福祉施設
的あてゲーム	1	2	福祉施設、放課後子ども教室
かき氷機	1	1	子ども会
その他(ポータブルトイ レ、松葉杖、淡路島かるた)	-	3	個人、福祉施設

■ふくしの出前講座

各地区で展開しているサロンや集いに、講座を手法とし職員が参加しました。地域情報の把握を行い、 地区カルテに記入していくことができました。

講座メニュー	具体的な内容・成果・課題	回数
レクリエーション	各地区で開催されているふれあい・いきいきサ ロンにて、工作や体操等の指導をしました。	37
防災(支え合い)マップづくり	マップ作りなどを通して地域の防災意識の向上に努めました。	2
講習その他	サロンで人権ビデオ等を活用し、人権意識や健 康意識の向上につなげました。	3

(2) ボランティアの育成と支援【補助金】

第3次計画到達点・・福祉学習などで芽生えた「気づき」を活動に変えていけるよう、ボランティア活動の 事例発表などを通したボランティア養成講座や研修会を実施することで、活動者を発掘し、増やすことを 目指しています。また、ボランティアセンターを運営し、懇談会や交流会の実施や、ボランティア保険の推 奨、助成金などの情報が気軽に入手できるよう広報誌やホームページなどでPRすることで、安心、継続し た活動ができるよう環境を整えます。

■ ふくしの出前講座(P42再掲につき省略)

■ボランティア養成講座 🬈



今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、「助けられ上手講座」のみ開催しました。 今後、新しい生活様式に対応したボランティア活動の開発、発掘が求められます。地域のニーズを把握 しながら新しいボランティア活動についても検討をしていきます。

■助けられ上手講座

月日	取り組みの内容・成果・課題・今後の方向性等	参加者数
R3.2.17	寸劇を交えながら「助けられ上手」とは何かを学んだ後に、実際に 日常生活でありそうな事例を用いながら、「自分ならどうするか」 をテーマに話合いをしました	9名

■ボランティア相談受付



ボランティア相談の内容としては、活動するうえでの感染症対策に関する相談や企業の地域貢献に関 する相談がありました。ボランティア活動が衰退しないよう、既存のボランティアグループなどへの聞き取り や活動の現状を把握していきます。今後も、ボランティアセンターの周知に努め、ボランティアがより活動し やすい環境づくりをしていきたいと考えています。

対象	件数	刘象	件数
一般住民	31 件	社会福祉協議会	12件
市民活動団体	6 件	ボランティア団体	31件
施設•病院	2 件	学校教育団体	2件
行政機関	7 件	その他	〇件

■ボランティアニーズ受付

今年度は福祉施設等がボランティアの受入を休止し、ニーズ・活動者ともに減少しました。その一方で、「縫野得枝さんプロジェクト」など、在宅でも活動できるものには多くのボランティアが参加し、多くの布マスクを必要とする方へと届けました。

市内の活動も徐々に戻ってきていますが、まだまだ活動先が限定されています。今後は二一ズの把握と活動メニューの開発力を入れていきます。

(依頼者)

対象	件数	対象	件数
一般住民	18 件	社会福祉協議会	11件
市民活動団体	6 件	ボランティア団体	3件
施設•病院	3 件	学校教育団体	2件
行政機関	4 件	その他	〇件

(活動内容)

	対象	コーディネート 件数	活動者数
	高齢者	32件	〇人
施	障がい者・児	5件	〇人
設	子ども	5件	1人
	その他	〇件	〇人
高齢	者に関する活動	68件	14人
障が	い者・児に関する活動	14件	10人
子ど	もに関する活動	20件	5人
環境	保全に関する活動	〇件	0人
災害	救援活動	〇件	0人
文化	、芸術、スポーツの進行を図る活動	〇件	0人
地域	のイベントなど	29件	〇人
その	他(縫野得枝さんプロジェクト・布マスク作成、外国人に関する活動)	365件	208人

■ボランティア保険の加入

ボランティア活動中の事故に備え、安心して活動が行えるよう「ボランティア・市民活動災害共済」等の加入促進を図りました。

種別	人 (件)	数	掛金(円))
兵庫県ボランティア・市民活動災害共済	652	人	326,000	田
兵庫県ボランティア活動等行事用保険	0	件	0	田
兵庫県移送サービス交通傷害保険	18	人	9,000	円

■福祉学習ハンドブックの配布

種別	校数	配布冊数
小学校	15	メールにて配信
中学校	6	メールにて配信

■ボランティアセンター・生活支援コーディネーターだよりの発行

発行回数	12回(毎月)
発行部数	4,800 部

■広報わかばの発行【会費・共同募金配分金・事業収入】

		<u> </u>	
発行回数	4		
発行部数	70,400	部	

※新聞折込による。沼島地区は、出張所を通じて配布。

■ボランティア登録状況



スマホからでも読めます】

地区活動種別	みどり	せいだん	みはら	なんだん	市外	合計	個人
福祉施設訪問や福祉施設 内での活動・行事のお手	0	3	8	9	0	20	
伝い	(O)	(13)	(74)	(122)	(O)	(209)	
地域の高齢者や障がい者	6	1	3	3	0	13	
を支援する活動	(69)	(27)	(43)	(12)	(O)	(151)	
子どもや青少年の健全育	1	2	3	2	1	9	
成のための活動	(18)	(14)	(21)	(46)	(7)	(106)	52
地域の行事やお手伝い	1	6	2	1	0	10	52
地域の加事での子位の	(42)	(260)	(33)	(79)	(O)	(414)	
自然や環境保護の活動	1	11	4	6	0	22	
日常では現代体語の心動	(49)	(115)	(45)	(189)	(O)	(398)	
その他の活動	1	1	1	1	1	5	
「てくり」団の方面割	(50)	(16)	(30)	(10)	(27)	(133)	

上段数字は、グループ・団体数。下段の()中数字は、登録人数。



【ボランティア活動。マスクの下は笑顔です】

活動項目③-2 気軽に集える場づくり

(1) 住民同士が気軽に集える場の推進【補助金、共同募金配分金】

第3次計画到達点・・家族や地域のつながりの希薄化・閉じこもり予防などは公的なサービスだけでは防ぐ ことができません。お互いを気にかける見守りのように身近なところでのゆるやかな関わりが大切だと考えま す。身近な集いの場を増やしていくことで、お互いを気にかける地域づくりを目指します。

■地域のつどいの場の把握

取り組みの内容 (成果·課題·今 後の方向性等)

上半期は、新型コロナウイルス感染拡大により集いの場やサロンが開催することが できない状態が続きました。自粛要請解除後にコロナ禍で集いの場を開催するうえ での諸注意を記したチラシをサロンの代表者に送付したり、電話による対応を行い ました。また、老人クラブの会にサロンの説明に伺ったり、集うことの意味や大切さを 伝えています。下半期においても開催できにくい状況は続きましたが、こうした状況 下でも新規サロンが上半期に2つ、下半期に2つできました。年度末にサロン代表者 向けにアンケートを取りましたが、体力の衰えや、気分の落ち込みなどの訴えがあ り、改めてサロンの重要性を覚えました。今後も感染症対策を行ったうえでの集いの 場の開催となりますが、集うことによる心や体力保持への好影響や災害時にも対応 できる大きな地域力にもなりうることを再認識することを伝え、啓発していきます。

■ふれあい・いきいきサロン(P4再掲につき省略)

■ 支部まつり 🥜



毎年、各地区で住民同士のつながりの輪を広げることを目的に「福祉のおまつり」を実施し てきました。今年度は10年目の節目を迎える年ではありましたが、各支部にて協議を重ねた結 果、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止を決定いたしました。

(2) 当事者同士がつながり合える場づくり【補助金】

第3次計画到達点・・同じ悩みや思いを抱えた方がつながり合える当事者の集いの場が、定期的に開催されることで「助けて」と言える地域づくりを目指します。また、当事者や家族の思いを地域や行政に伝えていくことで、誰もが住みよいまちづくりにつなげていきます。

■つながりサロン

新型コロナウイルスの影響により、今年度は活動を休止しました。参加者の意見を聞きながら、次年度に向けて内容を決めていきます。

■スポーツ交流教室

感染症拡大防止の観点から上半期は中止としました。障がいのある当事者の方からも「またみんなでスポーツをしたい」との声も多くいただいています。

月日	内容	参加者数	場所
R3.3.7	つながりフットサル交流大会への参加	9名	GOGOドーム

■くらす連絡会

つながりサロン同様に、上半期は活動を休止していましたが、10月に一度開催しました。例年参加していた 市総合防災訓練への参加は見送り、少人数での意見交換をしていくことで、行政や市障害者計画、各団体 への働きかけをしていきます。

月日 内容	参加者数	場所
R2.10.17 おしゃべり会	9名	市地区公民館

■視覚障がい者パソコン教室

視覚障がい者が、パソコン操作やインターネット等を学ぶことで、情報を自ら得て新たな友達とつながることや、当事者が地域で自分らしく暮らすことができるようになることを目指して実施しています。南あわじ市では、障がい者のコミュニケーションに関する意見交換会を重ねており、それらの中で把握した当事者の思いを担当課と共有・協議しており、今後のあり方についても検討していく必要があると考えます。

月日	内容	参加者数	場所
R2.9.19	音声パソコンの使い方について	4名	中央公民館
R2.10.17	音声パソコンの使い方について	4名	中央公民館
R3.3.13	音声パソコンの使い方について	4名	中央公民館

■よか(余暇) サークル"あつまらんか!"

保護者や兄弟姉妹同士のつながりづくりに焦点を当てて実施しています。加えて高校生や大学生のボランティアにもご協力をいただいており、障がいのある子どもたちと高校生や大学生のボランティアが交流する機会にもなっています。そして交流を通して相手の立場になって考えたり、他人を思いやる優しさを育む場となっています。

例年、事業の中で保護者は子どもたちの様子を見ながら、保護者同士で日頃の生活や進路等について語り合う情報交換の場にもなっています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、屋内での計画は取りやめ、南淡B&G海洋センターでのマリンスポーツのみ実施しました。

月田	内容	参加者数	場所
R2.8.11	マリンスポーツ	25名	南淡B&G 海洋センター









【この夏もみんなでマリンスポーツを楽しみました】



重点目標B 「活動をすすめるための組織基盤づくり」

取り組み① 経営組織強化

(1) 事務局体制の整備【補助金】

第3次計画到達点・・「法人運営部(仮称)」を設置し、人事管理と人事考課など、事業の見直しを通して 効率的で自立した組織運営が行えるような体制を目指します。また、個別の相談支援から制度改正や社 会情勢の変化など、様々な状況に対応できる総合的な事務局体制を整備します。

■事務局体制の再編

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 今年度も、行政実務者研修制度を活用して地域福祉部から1名の職員が市役所へ出向しました。若いワーカーが力を着実につけている一方、ベテラン職員の離職、現場介護職員の定着など安定した人員体制に向けての課題は少なくありません。現管理職世代から次世代職員へスムースにバンをつなぎ、これからの地域福祉を担う組織となるため、組織体制の大幅な見直しを行い、体制の再編と職場環境の整備を行いました。

■目標管理シートの作成(新規)

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 職員育成とモチベーション向上を目的に今年度から取り組んでいます。

上半期は、職員個々に目標を立案し上席と面談しました。部内・所内での共通目標を確認できたほか、職員の自己覚知にもつながっています。下半期には、中間・最終評価と次年度に向けた目標設定を行いました。

年間の共通目標「健康」というテーマは感染症予防対策との相乗効果で達成することができました。

(2) 理事会・監事会・評議員会の機能強化【会費・事業収入】

第3次計画到達点・・理事会、監事会、評議員会がその役割と機能を果たせるような組織体制をつくり、 社協が地域福祉の推進を担える組織体制を整えます。

■理事監事会() 内数字は、監事の出席人数。

日時	内容	出席者数	場所
R2.4.30	新型コロナウイルス感染拡大 緊急事態宣言を受け中止	I	南あわじ市社協 203会議室
R2.6.3	【報告事項】 ①令和元年度一般会計収支予算第3次補正について 【審議事項】 ①令和元年度事業報告について ②令和元年度一般会計収支決算について ③監事監査結果について ④定時評議員会の日程及び審議事項について 【協議事項】 ①理事、評議員の候補者について	14/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R2.7.6	【協議事項】 ①赴任旅費規程について 【報告事項】 ①コロナ禍における事業・活動について 【意見交換】 ①ポストコロナ社会における地域福祉活動・事業の方向性	14/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室

			
R2.8.12	【報告事項】 ①第1四半期の収支状況について ②旧法務局跡地譲受の進捗について ③新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業について 【意見交換】 ①今年度の地域福祉活動の方向性について	13/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R2.9.25	【報告事項】 ①令和3年度兵庫県社会福祉大会について ②働くシニア応援プロジェクトについて ③補助金を活用した事業所のICT化について ④担い手養成研修の共同開催について 【審議事項】 ①土地建物の譲受にかかる協定の締結について 【意見交換・協議】 ①災害に負けない地域づくりについて ・演習 ・提案の共有	13/15 (2)	南あわじ市社協203会議室
R2.11.25	【報告事項】 ①旧三原法務局跡地譲受の件 【審議事項】 ①令和2年度上半期事業報告について ②令和2年度上半期一般会計収支決算報告について ③監事監査結果報告について ④令和2年度第一次補正予算について ⑤評議員会の日程及び審議事項について	14/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R3.1.6	【協議事項】 ①第4次地域福祉推進計画の策定について 【審議事項】 ①定款変更について 【意見交換・協議】 ①第4次地域福祉推進計画に向けて ・意見交換 ・共有	15/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R3.3.22	【協議事項】 ①令和2年度第2次補正予算案について ②令和3年度事業計画案について ③令和3年度一般会計収支予算案について ④役員賠償責任保険契約について ⑤評議員会の日程・議案について 【報告事項】 ①職員の異動について 【意見交換・協議】 ①役員等の改選スケジュールについて ②高齢者、障がい者の就業機会の確保について	14/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室





【理事監事会。感染症予防対策を徹底し開催しています】

■監事監査

月日	内容	場所
	●新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、経済回復には相当な期間を要すると考えられる。とりわけ、観光業や一次産業、それら従事者等への影響は長引くことが予測されるため、市民や事業者に向けた「緊急小口資金特例貸付」や「給付金」等の一層の周知を図ること。また、相談窓口体制を含めた社協の組織体制のあり方について検討すること。 ●広報活動においては、今後も正しい情報提供に努めるとともに、取材に基づく記事を掲載する場合は、その事実や意図を担保するため取せたのおります。	* * * * * * * * * *
R2.5.18	材先の担当者・所属長に確認すること。また、法人内でのチェック体制を整えること。 ●「まちの電気屋ネットワーク事業」など新たな取り組みについては、どういう経緯で協定締結にまで至ったか、加入事業者数等の記述があれば、より伝わりやすい。 ●相談件数など前年度との差異については、その要因や根拠を明確に記述しておくこと。 ●社協の総合相談は、「断らない窓口」なので、「何をどこまで受け止めたか」、「受け止めた相談をどうつないだか」等が数値化されるとよい。	南あわじ市社協 203会議室
R2.11.17	●新型コロナウイルス感染症に関する対策や活動・事業については、地域活動や住民の変容を伝えるため、緊急事態宣言から現在にいたるまで時系列で、社協としての具体的な内容を記載すること。また、今後の取り組みの方向性を記載することが望ましい。 ●地域活動については、コロナ禍における「ふれあい・いきいきサロン」の現状を把握し記載すること。市内の多くで行われている「つながりを途切らさない」さまざまな活動が紹介できればよい。 ●特例資金貸付にかぎらず、コロナ関連給付金や助成金の要件は間口が広く線引きが難しいので、生活保護係や生活困窮者自立相談窓口との連携をより強め、相談対応にあたること。 □コナ禍においては、介護・障がい福祉サービスにつながっている方はもとより、これまで地域で普通に暮らしていた人が「社会的孤立」に陥りやすい。こうしたリスクを抱える住民の早期把握とアプローチをこれまで以上に積極的に取り組むこと。 □ネットワークを生かした情報の「把握」「提供」「共有」は、社会福祉協議会が大きな役割を担うので、今後も正しい情報の把握と共有に努めること。	南あわじ市社協 203会議室

■評議員会 ()の数字は役員の出席人数。【 】内数字は、オブザーバーの出席人数。

■評議貝差			一の出席人数。
日時 R2.6.25	内容 【報告事項】 ①令和元年度一般会計収支予算第3次補正について 【審議事項】 ①令和元年度事業報告について ②令和元年度一般会計収支予算について ③監事監査結果について ④理事の選任について	出席者数 27/28 (2) 【1】	場所 南あわじ市社協 203会議室
R2.12.15	【審議事項】 ①令和2年度上半期事業報告について ②令和2年度上半期一般会計収支決算報告について ③監事監査結果報告について ④令和2年度第1次補正予算について 【報告事項】 ①旧法務局跡の寄付譲受について	25/29 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R3.3.30	【審議事項】 ①令和2年度第2次補正予算案について ②令和3年度事業計画案について ③令和3年度一般会計収支予算案について ④定款変更について 【報告事項】 ①職員の異動について	25/29 (2)	南あわじ市社協 203会議室





【評議員会のようす】

■評議員選任・解任委員会

日時	内容		出席者数	場所
R2.6.5		議員の解任について 議員の選任について	5/5	南あわじ市社協 203会議室
R2.12.7		議員の解任について 議員の選任について	5/5	書面開催

■支部長会議

86	内容	出席者数	場所
R2.6.3	①支部運営員会の情報共有 ②今年度の支部運営員会活動について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R2.8.12	①支部運営員会の情報共有 ②令和2年度地区福祉事業配分計画について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R2.11.25	①支部運営員会の情報共有 ②今年度の支部運営員会活動について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R3.1.6	①支部運営員会の情報共有 ②今年度の支部運営員会活動について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R3.3.22	①支部運営員会の情報共有 ②次期委員会の編成、評議員候補者について	4/4	南あわじ市社協 203会議室

■支部運営委員会 (P9~11再掲につき省略)

(3) 財政基盤の強化【会費・事業収入】

第3次計画到達点・・自主財源の確保など、継続的・安定的な財務運営に取り組み、安心して地域福祉を推進していけるようにします。また、善意銀行の使途が検討できる場を持ち、住民の善意を有効に活用できるようにします。

■会員(一般・賛助・特別)の拡大

《一般会費》

地区	金額	件数	市	417,500	835
広田	477,500	955	神代	357,000	714
倭文	209,000	418	倭文	62,000	124
松帆	465,000	930	志知	69,500	139
湊	300,000	600	福良	631,500	1,263
津井	196,500	393	賀集	454,000	908
阿那賀	219,000	438	北阿万	262,000	524
伊加利	62,500	125	潮美台	215,000	430
志知	102,000	204	阿万	442,000	884
榎列	400,500	801	灘	108,500	217
八木	414,000	828	沼島	72,500	145
			計	5,937,500	11,875

《賛助•特別会費》

"5430 197	JJ 22, //	
地区	金額	件数
みどり	269,500	105
せいだん	0	0
みはら	1,000	1
なんだん	30,000	2
計	300,500	108



■共同募金運動への協力

今年度はコロナ禍により多くの協力事業者が影響を受けました。そんな中でも700を超える事業者さまに協力いただきました。民生委員児童委員はじめ多くの募金協力員の皆様にご支援をいただいたほか、一件一件丁寧に意向を確認し運動を展開したことが実を結んだと評価しています。

(単位 :円)

広域目標額	地域目標額	期間拡大目標額	地域歳末目標額	実績額
883,000	7,803,000	100,000	1,150,000	10,009,155



【募金内訳】

募金方法	実績額(円)	4	- 数	
一般募金	8,886,750		13,270	件
戸別募金	6,264,450	戸数	12,229	戸
街頭募金	15,194	回数	2	
法人募金	2,099,940	件数	701	件
学校募金	218,807	学校数	39	校
職域募金	153,635	職域数	237	件
イベント募金	53,934	件数	1	件
個人募金	27,800	件数	7	件
その他募金	52,990	件数	54	件
歳末たすけあい募金	1,122,405		12,221	件
戸別募金	1,070,950	戸数	12,217	戸
その他募金	51,455	件数	4	件

[※]期間中に受入した募金のみ記載

【期間外、テーマ型募金】

実施日	タイトル	来場者	ボランティア	実績額	内容
R3.3.28	赤い羽根 ひよっこバザー	6名	24名		「こどもの居場所」づくりやその活動を応援するため、地域の方から寄せられた善意の品物を活用しました。 バザーの運営を通して、来場者やボランティア、社協職員との新たなつながりがうまれました。

【戸別募金(一般募金・歳末募金)】

<u> </u>	NX 55 TIM NX NY 55 TIM I				
地区	金額	件数	市	536,200	756
広田	645,800	930	神代	417,800	685
倭文	275,000	422	倭文	56,300	101
松帆	542,100	867	三原志知	129,100	193
湊	409,500	585	福良	698,300	1,849
津井	207,700	384	賀集	635,600	908
阿那賀	252,000	444	北阿万	366,800	524
伊加利	78,400	122	潮美台	231,000	430
西淡志知	119,400	221	阿万	519,600	866
榎列	411,000	799	灘	151,400	216
八木	550,900	787	沼島	101,500	145

■共同募金配分金の活用(配分計画)

■六	■共同募金郎万金の活用(郎方計画)					
	事業分類	件数	金額(円)	備考		
	日常生活支援	2	125,000	高齢者友愛訪問、声かけ運動等		
	社会参加・まちづくり支援	4	789,092	世代間交流、座談会、ふれあい・いきいきサロン等		
高齢	社会福祉施設支援	0	0			
者	その他の地域福祉支援	0	0			
	災害対応・防災	0	0			
	小 計	6	914,092			
	日常生活支援	1	44,000	障がい者生活支援事業(友愛訪問)等		
障害児	社会参加・まちづくり支援	1	50,000	社会参加事業、体験教室、視察研修等		
吉旧	社会福祉施設支援	2	325,100	タブレット購入と通信環境の整備		
ν _υ •	その他の地域福祉支援	0	0			
者	災害対応・防災	0	0			
	小 計	4	419,100			
ı.	日常生活支援	0	0			
児 童	社会参加・まちづくり支援	4	85,000	交流会(屋外)、日帰り遠足、野外活動等		
•	社会福祉施設支援	2	120,000	備品購入		
青	その他の地域福祉支援	2	140,000	子育て支援活動、生活必需品を作ろう		
少年	災害対応・防災	0	0			
+	小 計	8	345,000			
	日常生活支援	0	0			
住	社会参加・まちづくり支援	IJ	758,432	地域福祉フォーラムonケーブルテレビ、つながる啓発回覧 板、地域賑わい事業等		
民その	社会福祉施設支援	0	0			
	その他の地域福祉支援	18	5,574,290	地区社協活動、研修会、ボランティア育成、福祉学習、社協広報等		
他	災害対応・防災	0	0			
	小 計	23	6,332,722			
	合 計	41	8,010,914			

■善意銀行(寄付金)の募集

(ア) 金銭預託

No.	月日	地区	預 託 者	預 託 内 容
1	4月1日	阿那賀	堀 大輔	亡父の供養として
2	4月6日	福良	北納屋サロンお茶場	地域福祉のために
3	4月22日	広田	2007年度南あわじ市老人クラブ連合会緑 支部女性部役員会	地域福祉のために(食事会の残金)
4	6月12日	八木	前川しもみ	亡夫の供養として
5	6月15日	広田	広田グラウンドゴルフ愛好会有志	地域福祉のために
6	6月18日	阿那賀	済藤ひとみ	地域福祉のために(マスクのお礼として)
7	7月9日	阿那賀	大亦 宏明	地域福祉のために
8	7月10日	賀集	藤江隆人	地域福祉のために
9	8月19日	賀集	藤江隆人	地域福祉のために

10	9月15日	榎列	角所 博	地域福祉のために(皆さまへ感謝)
11	12月3日	榎列	仁里 秋枝	地域福祉のために
12	12月7日	榎列	パッケージブラザスギモト×NPO淡路島アートセンター	コロナでもべっちゃないマスク売り上げ の一部として
13	12月17日	広田	グリーンアップル	地域福祉のために
14	12月18日	賀集	山田 哲也	亡妹の供養として
15	12月21日	洲本	蒼開中・高ジャズバンド部	歳末預託として
16	2月5日	阿那賀	菅 さだ子	亡夫の供養として
17	2月9日	阿万	高野山金剛講阿万支部	地域福祉のために(寒行浄財として)
18	2月19日	阿万	江本 光三郎	地域福祉のために
19	2月22日	阿万	阿万中学校第12期生同窓会	地域福祉のために
20	2月24日	福良	福良三真同窓会	地域福祉のために
21	3月6日	福良	北納屋サロン	地域福祉のために
22	3月29日	洲本	淡路視覚障害者の会	地域福祉のために

[※]上記以外に「匿名」での金銭預託が10件ありました。

(イ) 物品預託

品名	上半期(件数)	下半期(件数)
ペットボトルのふた	337	434
プルタブ	67	105
食 材	32	27
衣 類	3	9
家電	5	5
介護用品	14	8
バザー物品	0	64
手芸作品•材料	0	21
古切手・ベルマーク プリペイドカード他	103	135
計	561	808







【こんなときだからこそ、善意銀行(ボランティアセンター)機能の発揮しどころです】

(ウ) 払い出し

事 業 名	件数	払出金額(円)	内容			
歩行補助器購入助成事業 (@5,000円)	37	185,000	高齢者の介護予防の一環として、歩行補助器購入 助成を行っています。			
チャイルドシート・ベビーカー購入助成事業 (@5,000円)	80	394,900	子育て支援の一環として、チャイルドシート・ベビーカー・ジュニアシート購入の助成を行っています。			
安全坊や設置事業	45	44,031	交通安全活動の一環として、学校や市民の申出に 基づき信号機のない交差点等の危険個所へ安全坊 やを設置しています。			

上記以外にも地域からの相談や要望に応じて、必要な払い出しを行っています。



【コロナで影響を受けた世帯へ食材を無料配布しました】

■事業収入の確保

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 各事業所においては、既述のとおり年次計画(目標)に基づき事業収入の確保を心がけました。各事業所における成果や課題を、管理職会議で共有し、共通的に取り組むことで法人全体の組織強化につなげています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、各事業とも一定の実績をあげることができました。

■適正な運営

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 各事業とも法令を遵守した人員の配置とサービスの提供を行っています。事業の収支状況については、四半期ごとに実績を理事監事会で報告、共有しています。サービスを継続するために必要な有資格者・職員の計画的な確保と、法人運営を円滑にすすめられる体制の見直しに着手しています。これら計画を第2期地域福祉計画に明記されるようはたらきかけていきます。

■介護保険サービス

(ア)居宅介護支援事業

◆月別介記	(単位:円)		
月	今年度	前年度	比較
4月	1,689,980	1,748,160	△ 58,180
5月	1,641,870	1,680,070	△ 38,200
6月	1,788,000	1,750,190	37,810
7月	1,766,500	1,696,300	70,200
8月	1,759,190	1,704,520	54,670
9月	1,896,750	1,632,110	264,640
10月	1,907,930	1,637,990	269,940
11月	1,881,420	1,628,140	253,280
12月	1,861,960	1,615,440	246,520
1月	1,779,060	1,702,570	76,490
2月	1,780,430	1,615,710	164,720
3月	1,759,600	1,743,340	16,260
合計	21,512,690	20,154,540	1,358,150

(イ)訪問介護事業

◆月別介記	隻報酬の状況	(単位:円)	
月	今年度	前年度	比較
4月	2,325,592	2,463,072	△ 137,480
5月	2,423,467	2,606,991	△ 183,524
6月	2,339,555	2,530,374	△ 190,819
7月	2,429,209	2,606,432	△ 177,223
8月	2,412,516	2,512,796	△ 100,280
9月	2,436,779	2,432,436	4,343
10月	2,487,244	2,473,353	13,891
11月	2,335,586	2,158,911	176,675
12月	2,422,403	2,175,507	246,896
1月	2,229,467	2,136,183	93,284
2月	2,110,863	2,170,140	△ 59,277
3月	2,316,656	2,492,020	△ 175,364
合計	28,269,337	28,758,215	△ 488,878

■障害福祉サービス

(ア)居宅介護等事業(ヘルス)

◆月別介記	護報酬の状況		(単位:円)
月	今年度	前年度	比較
4月	1,813,196	1,851,071	△ 37,875
5月	1,916,800	1,845,707	71,093
6月	1,877,785	1,829,155	48,630
7月	1,808,521	1,972,101	△ 163,580
8月	1,817,294	1,894,745	△ 77,451
9月	1,914,276	1,878,935	35,341
10月	1,871,451	1,933,540	△ 62,089
11月	1,803,560	1,885,963	△ 82,403
12月	1,876,300	2,010,502	△ 134,202
1月	1,778,441	1,927,424	△ 148,983
2月	1,835,591	1,901,019	△ 65,428
3月	2,085,871	2,034,355	51,516
合計	22,399,086	22,964,517	△ 565,431

(イ)相談支援事業

◆月別介記	隻報酬の状況		(単位:円)
月	今年度	前年度	比較
4月	1,328,360	1,077,660	250,700
5月	1,040,930	1,058,790	△ 17,860
6月	1,069,540	926,670	142,870
7月	1,031,680	701,060	330,620
8月	1,175,050	1,031,110	143,940
9月	829,330	1,107,680	△ 278,350
10月	997,820	1,146,550	△ 148,730
11月	1,069,760	1,205,340	△ 135,580
12月	1,028,060	1,139,590	△ 111,530
1月	962,080	940,970	21,110
2月	870,190	789,330	80,860
3月	1,006,770	1,252,370	△ 245,600
合計	12,409,570	12,377,120	32,450

(ウ)移動支援事業

◆月別介記	隻報酬の状況	(単位:円)	
月	今年度	前年度	比較
4月	11,340	32,850	△ 21,510
5月	5,660	23,400	△ 17,740
6月	20,500	37,800	△ 17,300
7月	19,380	40,820	△ 21,440
8月	12,960	22,500	△ 9,540
9月	16,240	40,700	△ 24,460
10月	9,900	40,400	△ 30,500
11月	11,340	32,720	△ 21,380
12月	12,960	42,840	△ 29,880
1月	12,690	38,920	△ 26,230
2月	14,310	43,430	△ 29,120
3月	15,960	21,000	△ 5,040
合計	163,240	417,380	△ 254,140

(エ)生活介護(なでしこ)

◆月別介記	護報酬の状況	(単位:円)	
月	今年度	前年度	比較
4月	3,292,384	3,056,470	235,914
5月	3,109,956	3,214,490	△ 104,534
6月	3,478,429	2,926,160	552,269
7月	3,490,277	3,424,254	66,023
8月	3,008,456	2,858,224	150,232
9月	3,210,485	2,895,504	314,981
10月	3,226,817	3,496,021	△ 269,204
11月	3,037,757	3,119,377	△ 81,620
12月	3,200,467	3,239,327	△ 38,860
1月	2,579,278	2,827,116	△ 247,838
2月	2,782,996	2,902,406	△ 119,410
3月	3,421,627	3,362,049	59,578
合計	37,838,929	37,321,398	517,531

(オ)児童発達支援(なでしこ)

◆月別介	護報酬の状況	(単位:円)	
月	今年度	前年度	比較
4月	641,100	883,606	△ 242,506
5月	725,130	795,179	△ 70,049
6月	839,980	1,034,341	△ 194,361
7月	825,590	956,147	△ 130,557
8月	927,540	1,012,303	△ 84,763
9月	1,009,480	993,000	16,480
10月	1,016,542	1,066,408	△ 49,866
11月	950,989	1,226,140	△ 275,151
12月	1,058,039	1,214,071	△ 156,032
1月	1,000,685	1,168,856	△ 168,171
2月	1,012,566	1,343,744	△ 331,178
3月	1,077,022	1,350,182	△ 273,160
合計	11,084,663	13,043,977	△ 1,959,314

(カ)放課後等デイサービス(なでしこ)

◆月別介護報酬の状況	(単位:円)
* / 3 / 3 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	<u> </u>

月	今年度	前年度	比較
4月	611,150	787,412	△ 176,262
5月	592,300	922,053	△ 329,753
6月	575,853	835,268	△ 259,415
7月	621,293	946,054	△ 324,761
8月	617,779	1,015,413	△ 397,634
9月	588,257	954,863	△ 366,606
10月	554,126	1,039,356	△ 485,230
11月	606,364	993,115	△ 386,751
12月	510,572	851,704	△ 341,132
1月	530,132	922,048	△ 391,916
2月	540,052	956,057	△ 416,005
3月	598,643	1,047,203	△ 448,560
合計	6,946,521	11,270,546	△ 4,324,025

(4) 財政基盤の強化(補助金・受託金)【会費・事業収入】

第3次計画到達点・・行政とともに補助、受託事業のあり方について検討し、数値化できない事業や活動の成果を可視化できるようにします。また、補助、受託金事業の成果が見せられることにより社協の存在意義を明確にし、安定した財源確保ができるようになることで、さらに地域福祉を推進します。

■活動、取り組みの可視化

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 活動や取り組みの可視化については、これまで社協の構成員である住民や事業者、関係機関とカウンターパートナーである行政向けに社協広報紙「わかば」や「センターだより」のほか、自治会や民生委員・児童委員、老人クラブ等の団体の会合にできるかぎり参加し、活動の効果や成果を伝えるとともに会費や共同募金についても理解をすすめてきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により会合そのものが開かれない時期が続きました。これらの状況を打破するため、コロナ対策においてはマスコミやインターネットを活用し市内外へ社協の活動を発信力を高めていきます。

■早朝懇談会

平成30年度から社協と行政の役割・機能について相互理解を深め、社協と行政のパートナーシップを強化し、南あわじ市の地域福祉推進を図るため、市長、副市長はじめ市役所幹部職員と社協役職員の懇談会を開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに危機管理部長、産業建設部付部長をメンバーに加え、さらに議論が活性化しました。

田時	懇談会のテーマ	出席者数	場所
R2.7.15	「ポストコロナ社会におけるこれからの地域福祉」	17名	南あわじ市役所
R2.10.20	「コロナにも自然災害にも負けない地域づくり」 ~社協と行政の役割~	19名	南あわじ市社協





【早朝懇談会:今年度ははじめて市役所で開催しました】

■活動に必要な財源の要望

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等) 今年度は、生活困窮者自立支援相談事業で1名の職員を行政実務研修制度を活用し市役所へ出向させています。社会福祉法の改正に伴い、令和3年度には各市町において「重層的支援体制整備事業」実施の検討を進めていくことから、これまでの活動の成果を活かせるように行政と共に検討の場を設けていきます。また、エリア担当ワーカーと生活支援コーディネーターの適正配置を要望するほか、南あわじ市の地域福祉を推進していくための組織体制を再考し、地域共生社会の実現に向けて重層的な支援体制を構築していけるよう、行政との調整と協議をすすめています。

■補助金 (単位:円)

名称	今年度	前年度	比較
福祉コミュニティづくり推進事業(市)	21,500,000	21,500,000	0
ひょうご災害ボランタリー活動サポート事業補助金(県)	1,000,000	1,000,000	0
ボランタリー活動支援事業(市)	1,000,000	1,000,000	0
障がい者交流事業補助金(市)	300,000	300,000	0
音声パソコン教室	200,000	200,000	0

■受託金 (単位:円)

名称	今年度	前年度	比較
福祉サービス利用援助事業	1,860,000	1,621,000	239,000
生活福祉資金貸付事業	1,023,894	489,333	534,561
共助の基盤づくり事業	3,998,500	3,989,400	9,100
第2層生活支援体制整備事業	8,000,000	4,054,086	3,945,914
相談支援事業受託金収入	6,665,500	6,665,350	150
基幹相談支援事業受託金収入	2,040,000	1,199,000	841,000
その他の受託金収入	1,980,000	1,980,000	0
要介護認定調查事業	89,100	517,180	△ 428,080
介護予防支援事業	249,920	262,380	△ 12,460
障害程度区分認定調査受託金	162,800	152,400	10,400

(5) 財政規律の強化【会費・事業収入】

第3次計画到達点・第三者を含めた経営会議を開催し、経営改善を行うことで安定した法人運営を目 指し、利益を地域に還元する仕組みをつくります。

■内部牽制のしくみづくり

取り組みの内容 (成果・課題・今 後の方向性等)

予算管理や執行については、担当者から管理職、管理職から総務の決裁ルール のもと、内部牽制とチェック機能を働かせています。また、管理職会議を定例化し 経営状況についての共有と経営改善に向けた協議に努めています。下半期におい て、日常生活自立支援事業の内部点検を計画していましたが、実施にいたってお らず、次年度早々に着手します。

■情報の公表

取り組みの内容 (成果·課題·今

ホームページや社協広報「わかば」で公表するほか、自治会、民生委員・児童委 員、地域交流センター等の会議で、社協の活動や会費・共同募金の使いみちな ど、社協の財源や使途について説明を行っています。今年度は、会議そのものが開 かれない時期が続きましたが、ホームページをリニューアルするなど、より見やすく わかりやすい情報公開に努めました。また、「障害福祉サービス等情報公表システ 後の方向性等) ム」、「財務諸表等電子開示システム」によりフェブ上で法人と事業所の情報を開 示しています。

今後は動画の活用など、啓発の要素を取り入れた情報を積極的に公表していき たいと考えています。

取り組み② 人材育成

(1) 職員の資質向上に向けた取り組み【補助金】

第3次計画到達点・・法人の理念や目標を明確にし、役職員で共有し同じ方向を目指します。地域福祉 をさらに推進できる職員を育成し、法人の組織力を強化します。

■職場内研修 【会費、事業収入】

日時	研修テーマ	出席者数	場所
R2.7.22	「職業倫理とコンプライアンス」	25名	203会議室
R2.9.25	突発的災害が起きた時にやるべき業務について考える	27名	203会議室
R2.12.18	発災後24時間以内の業務の確認・共有	21名	203会議室
R3.2.19	「認知症ケア」	21名	203会議室
R3.3.26	「権利擁護と虐待防止」 虐待防止を小さな出来事で考える	25名	203会議室







【職場内研修のようす】

■職場外研修の参加

上半期前半は、集合形式の研修がほとんど中止になりました。7月以降は島内で開催されるもの、オンライン参加ができる研修を中心に参加しています。オンラインセミナーや会議は今後も機会が増えることから、多職種が一度に受講できる環境整備等をすすめます。

月日	研修等の名称	参加者	集合・オンラインの別
R2.6.12	淡路島の社会福祉協議会職員協議会業務研究会	山□·齋藤·森·長井·清川·谷本·柿花·奥本·濱田·松本·桑田·田中·倉本·東庄	集合
R2.7.8	新しいつながり事業を考えるオンラインセミナー	清川	オンライン
R2.7.12	コロナ禍における差別の構造と社会福祉協議会と取り組む見守り弁当配達	ШО	オンライン
R2.7.28	若年層のひきこもり事例検討会	平見・東庄	集合
R2.8.7	淡路島の社会福祉協議会職員協議会業務研究会	山口·齋藤·平見·森·長井·清川·谷本·柿花·奥本·濱田·田中·東庄	集合
R2.9.7	障害者虐待対応力向上研修 行政・虐待防止センター向け研修	平見	集合
R2.9.18	第1回 松下徹のぐんぐんセミナー	藤﨑、藤本、初谷、山口	オンライン
R2.9.24	障害者虐待対応力向上研修	東庄	集合
R2.10.4	ボランティア・市民活動シンポジウム	清川	オンライン
R2.11.4	ICT導入研修	森•北川	オンライン
R2.11.12	福祉専門職対象防災対応力向上研修	平見・田中	集合
R2.11.13	基幹相談支援センター職員研修	平見	集合
R2.11.15	第7回生活困窮者自立支援全国研究交流大会	土居	オンライン
R2.11.27	淡路圏域在宅療養支援推進会議	東庄	オンライン
R2.12.8	淡路地区人教社会教育部会研修会	長井	集合
R2.12.12	第7回生活困窮者自立支援全国研究交流大会 分科会7	土居	オンライン
R2.12.14	第1回社協ワーカー実践研究会議	清川	集合
R2.12.15	第3回大規模災害を想定した災害ボランティア連携訓練	長井	オンライン
R3.1.21	県内社協事務局長会議兼経営セミナー	山口·森·宮崎·桑田	オンライン

R3.1.29	地域サポート施設推進事業 令和3年度地域サポート施設募集要項説明会	齋藤・宮崎・長井	オンライン
R3.1.29	包括的支援体制拡大研究会	山□・齋藤・宮崎・長井	オンライン
R3.2.3	兵庫県ホームヘルプ事業者協会「令和2年度管理者研修」	森	オンライン
R3.2.18	介護請求伝送サービスオンライン説明会	桑田•富山	オンライン
R3.3.1	災害ボランティアコーディネーター養成研修【応用編】	長井	オンライン
R3.3.5	県内社協事務局長会議	山口・松本・平見	オンライン
R3.3.8	社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット)代表者会議	山口•宮崎	オンライン
R3.3.13	兵庫県介護支援線専門員協会「主任介護支援専門員実践報告会」	松本	オンライン
R3.3.16	重層的支援体制整備事業 情報交換会	山口・奥井・平見	オンライン
R3.3.18	第2回社協ワーカー実践研究会議	宮崎	集合
R3.3.18	南淡民生委員児童委員協議会「児童福祉部会」視察研修	長井	集合
R3.3.21	第7回小児在宅医療実技講習会	東庄	オンライン
R3.3.24	令和3年度介護報酬改定説明会	山本・森・松本・濱田・松山	オンライン

■会議を活用した職場内研修 【会費、事業収入】

研修・会議等の名称	内容	開催頻度等
管理職会議	各部からの報告・研修結果の報告等	月1回
職員会議	各部からの報告・研修結果の報告等	随時
ケアマネ会議	研修計画に基づく研修の実施と福祉関係情報の共有等	月1回
相談支援専門員会議	多職種参加によるケースの共有と困難事例の検討	週1回
ヘルパー会議	研修計画に基づく研修の実施と地区別連絡会等	月1回
ケース会議	多職種参加によるケース検討を活用した研修	週1回
生活介護定例会議	業務内容の確認・個別ケース検討・リスクマネジメント・事業所内研修等	月1回
	事業運営の検討、情報共有、月間予定確認、ケース検討等	月2回 🎉

※これら以外にも、担当者会議等を通して職員の資質向上に取り組んでいます。

■耒彰

■表彰 受賞者・団体	表彰名•大会等	表彰の内容
湊小学校		5年以上におよび功労が優秀で あり、他の模範と認められるも
志知保育所		D
沼島中学校	兵庫県共同募金会会長表彰	
沼島小学校		
ぬしま保育園		
榊 秀一 様	ひょうご県民ボランタリー活動賞	ボランタリー活動を通じて地域 コミュニティの形成に功績の あった個人・団体等を顕彰

■人材育成プログラム

取り組みの内容 (成果·課題·今 後の方向性等)

日常業務の相談や会議の場でOJTを意識した職員の育成に取り組んでいるほか、 職能、職責ごとにキャリアパスと連動した外部研修を受講しています。

また、ワーキングチームにより職責・職能に必要な知識とスキルを身につけられるよ う研修計画を策定し今年度から運用。オンラインによる研修参加が可能になったた め、多くの職員が学べる環境が整いました。

■キャリアパスのしくみづくり

職員のモチベーションを高め働きがいのある職場づくりとこれからの体制強化・整備 取り組みの内容をすすめることを目的に、研修のあり方を見直すとともにキャリアパスのしくみをつく (成果・課題・今 り、年間目標シートと連動させてスタートしています。 研修計画については、コロナ禍 後の方向性等)においてもプログラムに参加できるよう、WiーFi環境を整備し、オンラインによる研 修参加が容易になりました。

■産業医の選任・安全衛生委員会の設置

(成果·課題·今

取り組みの内容 | 今年度も全職員の健康診断を実施後に産業医による指導とメンタルヘルスチェッ クを行いました。

後の方向性等)【産業医】穀内クリニック 穀内勇夫医師、穀内純江医師

■苦情等を改善につなげる取り組み

今年度から一定のルールのもと報告・共有を徹底し、職員の資質向上とサービスの改善に結びつけています。年間通じて重大な事故はなかったものの、「信用失墜」や「利益損失」に発展しかねない事案がありました。根気強く職員一人ひとりの意識にはたらきかけ、信頼される組織づくりをすすめます。

【部·所別】

部•所名	種別	件数	主な内容
//\\ ZE	苦情	O件	
総務 • 地域	事故	6件	配達物誤配·未郵送、講師謝金未払、書類未提出、現金の遅 延、保険証の遅延等
訪問介護	苦情	7件	サービス提供時の言動·行動、買物間違い、担当ヘルパーの変更、利 用者宅爪やすり紛失、職員の態度、制度上の認識不足
初刊表	事故	14件	請求誤り、サービス未提供、訪問ミス、器物破損、買物連 絡ミス
 	苦情	O件	
居宅介護支援	事故	4件	車輌ドアミラー破損(単独)、連絡ミス、個人名流出
相談支援	苦情	O件	
作成文技	事故	2件	信用喪失(書類未確認)、訪問時間の間違い
生活介護	苦情	O件	
土冶川張	事故	13件	器物破損、他者への危害、利用者間トラブル(職員への暴行) 、車輛事故(ブロック塀)、セキュリティかけ忘れ
	苦情	O件	
児童・放デイ 	事故	5件	予約のダブルブッキング、訓練中止の連絡ミス、個人名流 出

職員の意識改革と質の向上、業務改善を目標とし新しい事故報告・苦情記録様式を用い、これまで曖昧だった改善策に結びつけるため後述のルールを徹底しています。苦情については、部・所内で共有のうえ改善策を、事故については、会長へ報告のうえ管理職会議で共有し、事故対応・再発防止策を講じました。

今年度取り組んだ内容や成果について以下に記載します。







【改善に着手した内容と成果】※苦情・事故の有無に関係なく改善に着手したものを記載しています。

部・所名	着手した点	なく改善に着手したものを記載しています。 内容と成果
	口頭での伝達と記録を追加	ロ頭での伝達のみを記録も追加して伝えることに変更した ことで、伝え漏れが無くなっている。
総務•地域	休日対応の預かり金の保管	休日預かりの金銭は、普段使わない鍵のかかる保管場所から、金庫で保管、翌日に総務にて処理に変更したことで、 処理の遅れがなくなった。
	必要書類の受け渡し	総務担当者から本人へ直接受渡しにしたことで確実に処理できるようになった(社協事務所内)
	連絡ノートを地域別から全体の ものへ変更	連絡ノートを全体が確認できる様式に変更。また、連絡事項・担当者会議の内容等を書面で記録を残して共有するようにしている。その他の書類についても地域別から全体を
	担当者会議録の作成・回覧	把握できるものに変更している段階で、全体を把握することの意識付けを図ることができた。
訪問介護	シフト確認する際に確認する事項の統一	管理者・サ責による週間シフトの前段階の確認時点で、追加・変更等が分かるように印をし、それらに対して確認した有無も記入する。利用者からの予定変更分は月間一覧表に記入。週間シフトを確認する際に、月間一覧表と基本シフトと照合して確認する。それでもミスは時折発生しており、何が原因で起きてしまったのか都度確認している。
	新規ケースの記録	サービスにつながる、つながらないに関係なく初期段階での対応記録を徹底。対応者以外の職員でも対応できるようにした。
居宅介護支援	受け持ち件数の共有	定例会議で担当件数することを徹底した。このことにより、職員個々が事業運営を意識した業務を行えるようになった。
10=W-1	スケジュール確認	確認ミスや漏れを予防するため、朝礼時に事業所内で1日の 予定を共有している。
相談支援	書類の受け渡し	書類の受け渡しミスをなくすため、書類を事業所ごとにク リアファイルや封筒に入れて渡すようにした。
	問題解決に向けた即時対応	再発防止のための取り組みを即時検討・実践・検証の繰り 返しを行っている。
生活介護	業務日誌の共有	業務日誌の申し送り欄に、利用者に関する情報(利用時の様子や対応、対応方法の変更、その他連絡事項等)を記録。出勤していない日の出来事等を把握できることで、情報不足や対応の遅れを防ぐことができている。
	視覚で確認できる環境整備	セキュリティのかけ忘れやガスの元栓の閉め忘れを防ぐた めに、視覚で確認ができるように工夫した。
児童・放デイ	予約の三重チェック 日報の前日・当日確認	確認ミスや連絡漏れを予防するため、予約受付→メモ→担当者別予定表・月間予定表・日報を確認し修正することを 徹底した。
	送付書類内容の再確認	記載ミスを予防するため、封入前に書類内容を再確認することを徹底した。

計画の推進

■第3次地域福祉推進計画の振り返りと評価

作業部会が中心となり、3次計画の振り返りと評価を各部署で行いました。職員のワークショップで出てきた意見と理事からの意見を整理し、4次計画の策定作業につなげています。また、市と合同でアンケート調査を実施しており、今後はアンケート結果を分析し計画に反映していきます。地域生活課題が多様化していく中で社協としての役割が果たせるように、計画策定を進めていきます。

■地域福祉フォーラムonケーブルテレビ(



地域福祉推進計画の策定に向けて、地域福祉フォーラムを開催しました。南あわじ市の地域生活課題を整理し地域福祉のこれまでとこれからについて、意見交換を行い、人と人とのつながりやネットワークの必要性を学ぶ機会となりました。コロナ禍を受けて、ケーブルテレビを活用し多くの方に視聴いただきました。

月日	内容	事業名
R2.12.14~ 12/20	基調講演 「南あわじ市で地域福祉を推進していくために」 パネルディスカッション 「みんなで考え みんなでつくる 地域づくりとは」	地域福祉フォーラム onケーブルテレビ

■第4次地域福祉推進計画策定委員会

日時	内容	出席者数	場所
R3.1.15	「地域福祉推進計画とは一市の地域福祉計画との関係 一」 ①第3次地域福祉推進計画の進捗について ②意見交換「こんな南あわじ市になるといいな」	16	南あわじ市社協 203会議室







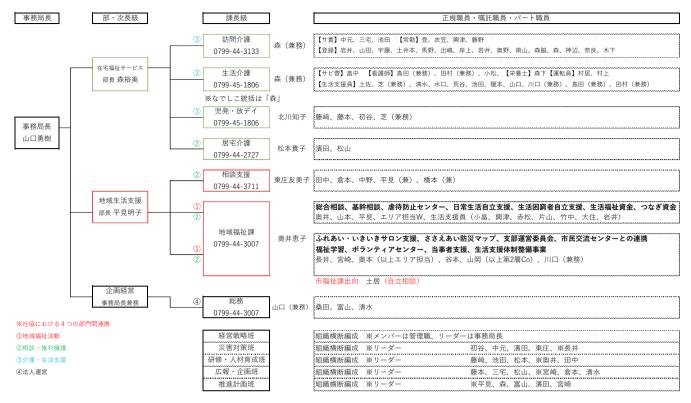








社会福祉法人南あわじ市社会福祉協議会事務局体制【202104~】



社福連協 (事務局) 宮崎、平見、(困窮) 奥井、(子ども) 東庄

■職員配置(3月31日現在)

職種	常勤	常勤嘱託	/ Y -	採用人数	退職人数
		かまが帰った	/ / /	1本/四八数	
コミュニティワーカー	6 (7)				1
生活困窮者自立(主任)相談員	(1)				
生活支援コーディネーター	1	1			1
ボランティアコーディネーター	(2)				
介護支援専門員	4				
訪問介護管理者	1				
訪問介護員	5	2	17	2	3
相談支援専門員	3				1
児童発達支援管理責任者		1			
サービス管理責任者	1				1
児童指導員	3			1	
看護師			2 (1)		
生活支援員	(1)		9 (2)	2	1
栄養士			1		
調理員			(1)		
運転員			2	1	
市役所出向	1				
その他	2	2	7 (1)	2	
実数	27	6	38	8	8

※職種は主な業務でカウント、()中数字は兼務の人数。※採用、退職は今年度中における数を記載。

【参考資料】南あわじ市介護保険被保険者数等の状況 出典:南あわじ市長寿・保険課

1.被保険者の状況 (単位:人)

	被保険者数	(うち前期高齢者数)	(うち後期高齢者数)	
平成28年4月	15,811	7,636	8,175	
平成29年4月	15,905	7,667	8,238	
平成30年4月	16,092	7,768	8,324	
平成31年4月	16,112	7,678	8,434	
令和2年4月	16,154	7,752	8,402	

2.認定者数の状況 (単位:人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	認定率
平成28年4月	516	440	697	498	394	360	305	3,210	20.30
平成29年4月	537	450	766	470	378	328	261	3,190	20.05
平成30年4月	609	456	777	446	356	332	222	3,198	19.94
平成31年4月	673	466	728	454	351	326	211	3,209	19.91
令和2年4月	608	446	727	453	370	314	199	3,117	19.29

3.介護給付費の状況 (単位:円)

	居宅サービス費 (用具・住改含)	居宅介護支援	地域密着型 サービス費	施設サービス費	高額サービス費	特定入所生活介護サービス費	合計
平成28年4月	1,702,163,639	211,048,267	592,651,375	1,583,155,015	83,457,132	188,045,817	4,360,521,245
平成29年4月	1,611,490,377	192,913,281	596,214,395	1,555,833,819	93,217,300	183,335,518	4,233,004,690
平成30年4月	1,571,092,272	192,284,827	611,591,006	1,479,575,781	79,007,810	181,775,932	4,115,327,628
平成31年4月	1,580,275,377	195,335,640	626,240,700	1,557,672,284	95,712,154	189,405,695	4,244,641,850
令和2年3月	1,594,514,730	195,710,615	651,873,642	1,661,056,167	109,208,436	192,915,162	4,405,278,752